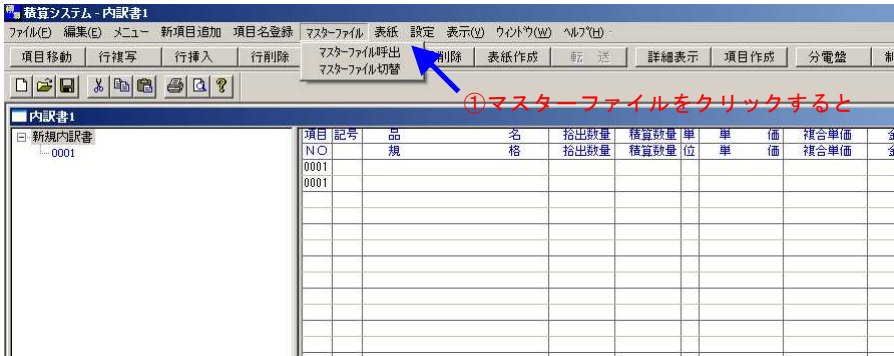


目 次

第 1 章 とりあえず内訳書を作成する	3
1-1、新規に内訳作成ウィンドを表示	3
1-2、マスターファイルの呼び出し	4
1-3、マスターファイルを切り替える	5
1-4、マスターファイルから内訳書ヘッダーを送る	6
1-5、付属品を計算する	7
1-6、雑材を内訳作成画面に送る	7
1-7、労務費を内訳作成画面に送る	7
1-8、項目の合計を計算する	8
1-9、次の項目を開く	8
1-10、電卓ダイアログで数値入力	9
1-11、各項目の集計を新たに項目 1 につくる	9
1-12、表紙を作成	13
1-13、印刷の用意をする	14
1-14、作成した内訳書の保存	17
第 2 章 データ構成	18
2-1、1 行のデータ内容を表示	18
2-2、新しくデータを入力する	19
2-3、常時複合単価で表示された材料について	20
第 3 章 マスターファイルについて	21
3-1、材料分類について	21
3-2、計算分類について	23
3-3、大、中、小項目分類を表示する	25
3-4、詳細ダイアログを表示	26
第 4 章 特徴と機能	27
4-1、複合単価計算	27
4-2、空白行を挿入、削除する	28
4-3、行を指定して複写する	28
4-4、項目を挿入する	29
4-5、項目を削除する	30
4-6、単価を変換する	31
4-7、単価をコピーする	32
4-8、数量を変換する	34
4-9 その他掛け率を削除する	35
4-10、盤の労務費を計算する	36
4-11、配線器具労務費を計算する	37
4-12、大、中、小項目と表紙計、中計、小計、項目内計について	38
4-13、経費を計算する	41
第 4 章 各種設定について	42
5-1、演算分類を設定する	42
5-2、合計を丸める桁を設定する	43
5-3、複合単価丸めを設定する	43
5-4、複合労務単価を設定する	43
5-5、複合単価を表示する	44
5-6、表紙フォームを設定する	44
5-7、ヘッダー設定	44

5-8、表紙ファイルを選択	45
5-9、設定ファイルを選択	45
5-10、相手先設定ファイルを選択	46
5-11、分電盤、制御盤、配線器具歩掛計算ファイルを選択	46
第6章、 相手先登録、表紙作成	47
6-1、相手(取引先)を登録	47
6-2、内訳書に表紙を作成する	47
第7章 印刷	49
7-1、プリンタの設定	49
7-2、内訳書印刷	49
7-3、総括表印刷	52
7-4、総括表を単価表で印刷	53
第8章 テキストファイルで出力	54
8-1、内訳書をテキストファイル出力	54
第9章 作成した内訳書から集計表を作成	56
9-1、集計画面に読み込み	56
9-2、集計表を印刷	59
9-3、集計表をテキストファイル出力	59
第10章 使用上の注意とトラブル対処法	61
10-1、マスターファイルの単価について	61
10-2、内訳書作成に関する注意事項(かならずお読みください)	61
10-3、漢字変換モードで数量、単価等の数値入力できない場合	61
10-4、漢字変換モードで先に変換した文字が次に変換確定した文字の次に表示される場合	61
10-5、材料集計で分類集計に材料分類が表示されない場合	61
10-6、エラー表示がでてソフトウェアが立ち上がらない場合	61
10-7、本ソフトウェアの仕様について	61
第11章 許諾契約書と免責事項	62
11-1、許諾契約書(かならずお読みください)	62
11-2、ご使用者の名前(社名)を表示	62
11-3、サポート情報	62

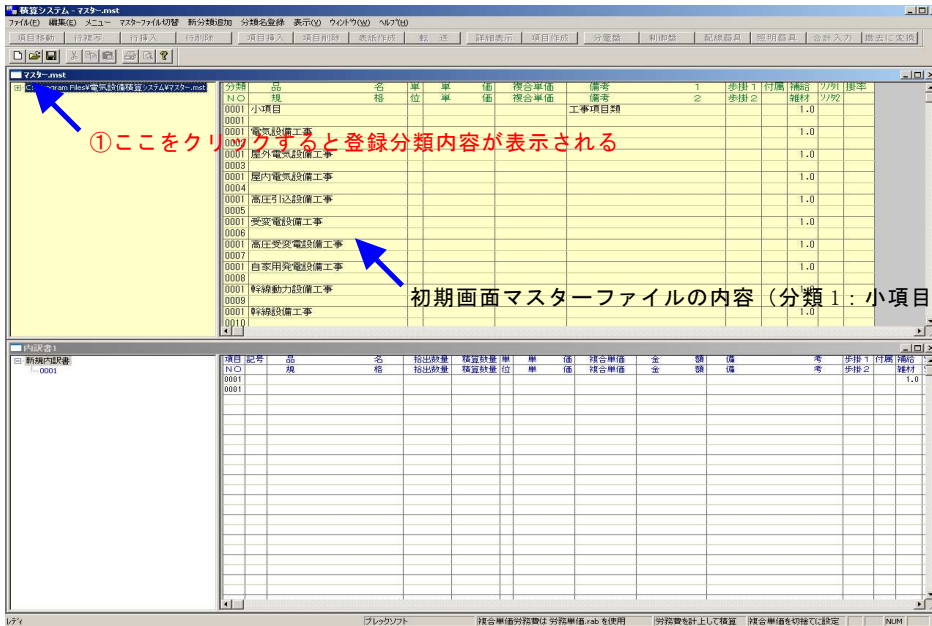
1-2、マスターファイル呼び出す



マスターファイル呼出と
マスターファイル切替
が表示される

呼出は登録されたマスターファイルを表示します。
切替は複数登録してあるマスターファイルの別のマスターファイル
を呼出す時の機能です

マスターファイルの呼出し

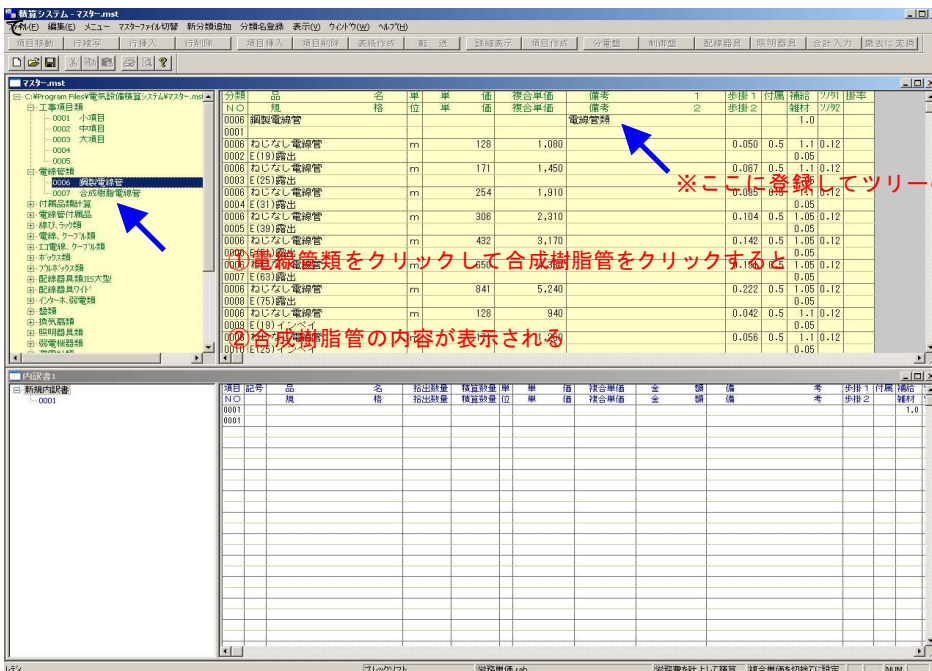


一度選択すれば次からはメニュー
からマスター呼び出して、選択
したマスターファイルが表示
されるようになります。

初期画面マスターファイルの内容（分類1：小項目）が表示される

マスターファイルが呼び出され
て内訳作成画面が半分割される。

マスターファイルが表示されたので分類を移動する

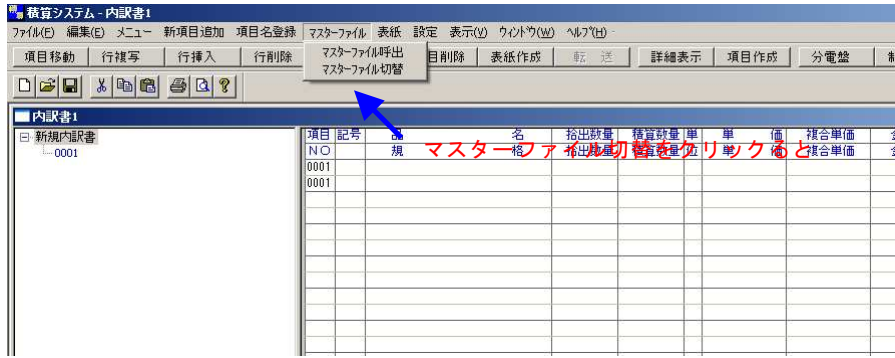


マスターファイルは通常分類1
から表示されるので分類を移動
して小項目を表示します。

マスターファイルには999分類
各分類ごとに9999まで表示
出来ますが登録データ数は
30,000です。

内訳ファイルも999項目
各項目ごとに9999まで表示
登録データ数は10,000です。
また、キーボード操作もでき
ます。F1キーで分類移動表示

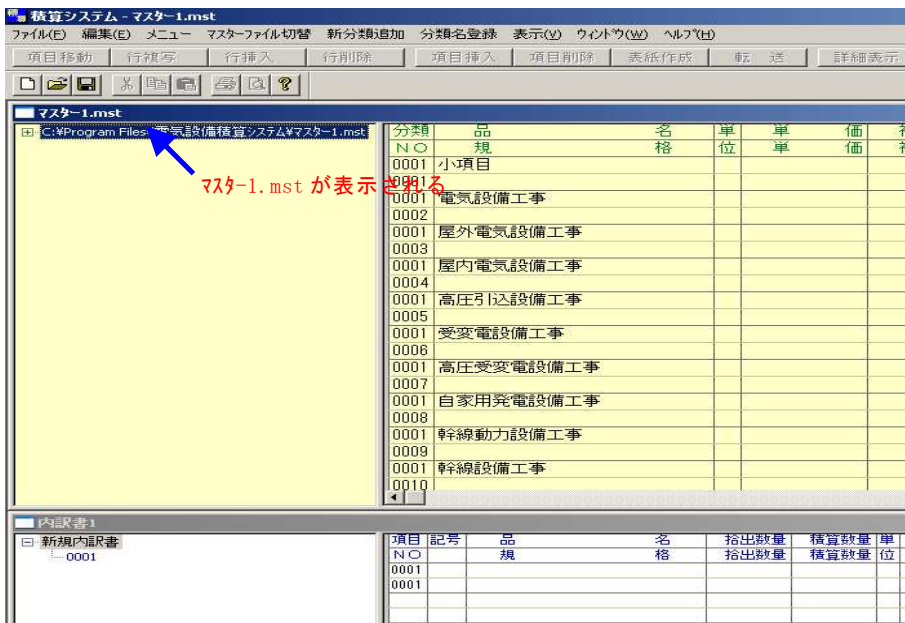
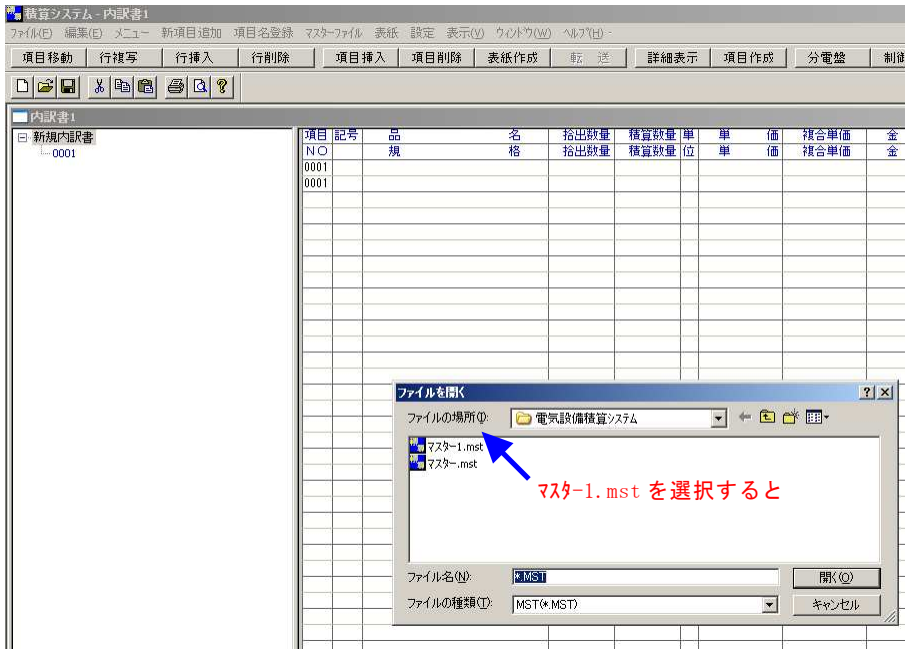
1-3、マスターファイルを切り替える



マスターファイルを複数登録して用途に応じて使い分けたいときにこの機能を利用します。

②小項目をダブルクリックするか

マスターファイル選択ダイアログが表示される



1-4、マスターから内訳書ヘッダーを送る

①ここをクリックして小項目を選択

②電灯設備をダブルクリックすると

③ここに転送されたので

④記号に番号、またはアルファベット等を入力
(これがないと項目作成時に金額が表示されない)

工事項目を選択して転送します。
 キーボード操作はF8に対応しています。
 ※Tab キーでも同様の操作が行えます

資材を選択

①次に合成樹脂電線管を選択して

②ここをダブルクリックすると

ここに転送される

次に使用資材を選択して内訳作成ウインドに転送します。

材料を内訳作成画面に送る

カーソルが自動的に移動するので数量を入力すると金額が計算される

2行目以降へマスターから資材を選択して転送します。
 キーボードでマスターから内訳作成ウインド間のカーソル移動はCtrl+Tab キーを同時に押します。
 ※連続して材料を転送したい時は数量を入力せずにマスターから連続して材料を選択して転送を繰り返せば連続して行えます。

1-8、項目の合計を計算する

①小計をダブルクリックすると

合計入力ボタンをクリックすると合計計算ダイアログが表示されるので同様の操作を行います。

②Enterを押すと自動的に合計金額が表示される

労務費入力を終了したら次に小計の分類をマスターから選択して内訳作成ウィンドに転送します。

カーソルが自動的に移動しますのでEnterキーを押せば編集項目の合計金額が表示されます。

注：資材と労務費の間に資材の小計を入れたい場合はマスターから項目内計の分類を選択して同様の操作を行います。

1-9、次の項目を開く

①新項目を追加をクリックすると

②項目追加ダイアログが表示されるのでOKを選択

1項目の入力が終了すると次の工事項目を作成します。

項目追加ダイアログが表示されるので続いて項目追加する場合はOKボタンで次の項目が開きます。

※品名入力部分で右クリックしても項目移動ダイアログが表示されます。

2項目が開く

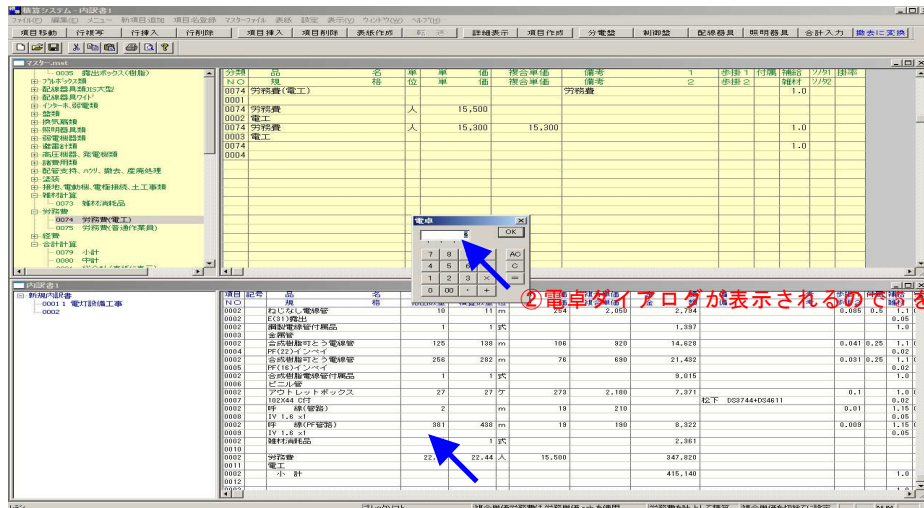
1項目の電灯設備工事が表示され、新しく2項目が表示された

この時点で項目1はメモリーに記憶されていますのでツリーの電灯設備工事をクリックすれば1項目に移って内容が表示されます。

新項目が出来た時点でBackup.estファイルが作成され1項目の電灯設備工事の内容が書き込まれます。

エラー終了した場合にはこのファイルを読み込むと1項目前までの内訳が表示されます。

1-10、電卓ダイアログで数値入力



②電卓ダイアログが表示されるので+を入力すると10が表示される

2項目に次の電話設備工事を1項目と同じ要領で作成します。
ここで電卓ダイアログによる数値入力を行います。
2×5=10と計算結果を入力したい時はこのような方法で
できます。また数量が50で10追加したいときは数量にカーソルを移して+を入力するとダイアログが表示されますので5Enterで15になります。

①拾出数量でダブルクリックするかキーで2*を入力すると

作成した内訳の内容

項目記号	品名	単位	数量	単価	金額	備考	歩掛	内訳	割合	比率	分率
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										
0001	電気設備工事										
0002	電話設備工事										

項目作成ダイアログを表示する

②項目作成ボタンを選んでクリックすると
※品名入力部分で右クリックしても項目移動ダイアログが表示されます。

①電話設備工事を選んでダブルクリックし1項目を表示

③項目作成ダイアログが表示されるのでOKを選択

項目1に工事項目が挿入表示された

項目集計が0項目に挿入された

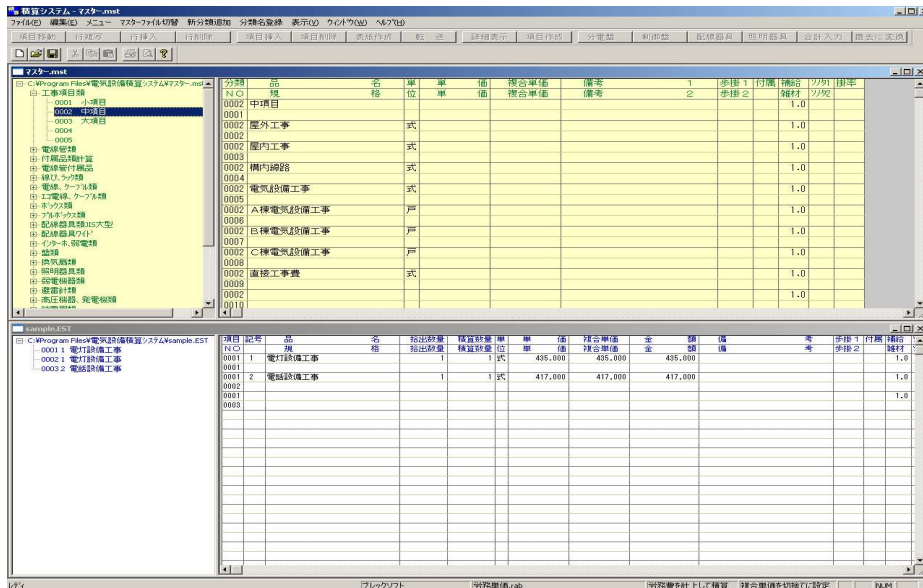
各項目の工事項目（小項目）が1項目に挿入され1行目から自動的に1項目に集計表示されます。
元の項目は2項目以降に繰り上げられます。

もう一度マスターを呼び出し

マスターファイルをクリック

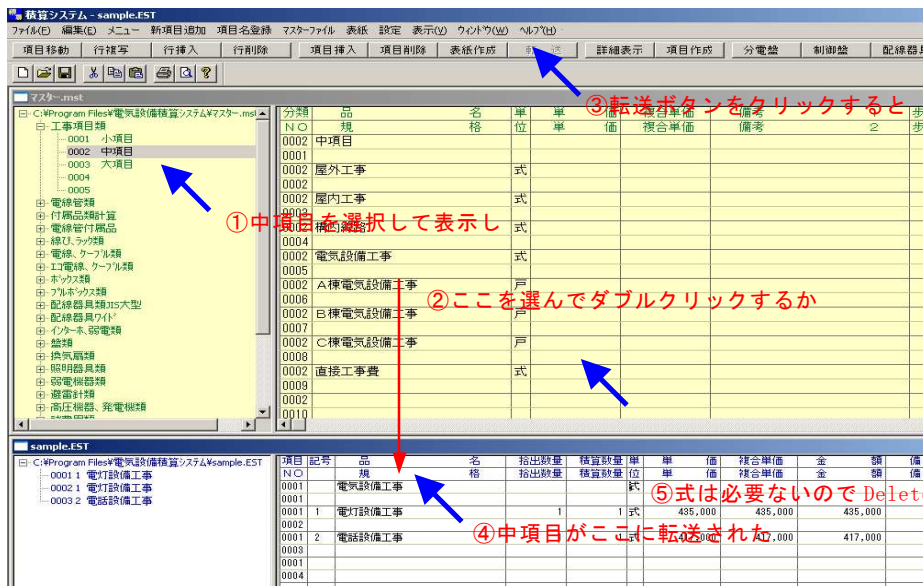
次に中項目、各項目の合計を入力するためマスターを呼び出します。

中項目分類を選択



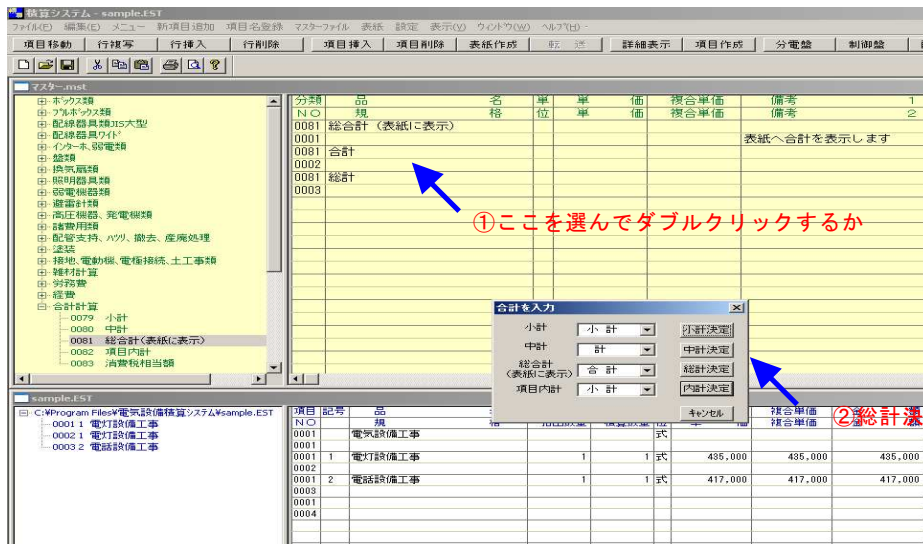
分類集計ダイアログを表示して
中項目分類を選択します。

中項目分類が表示された



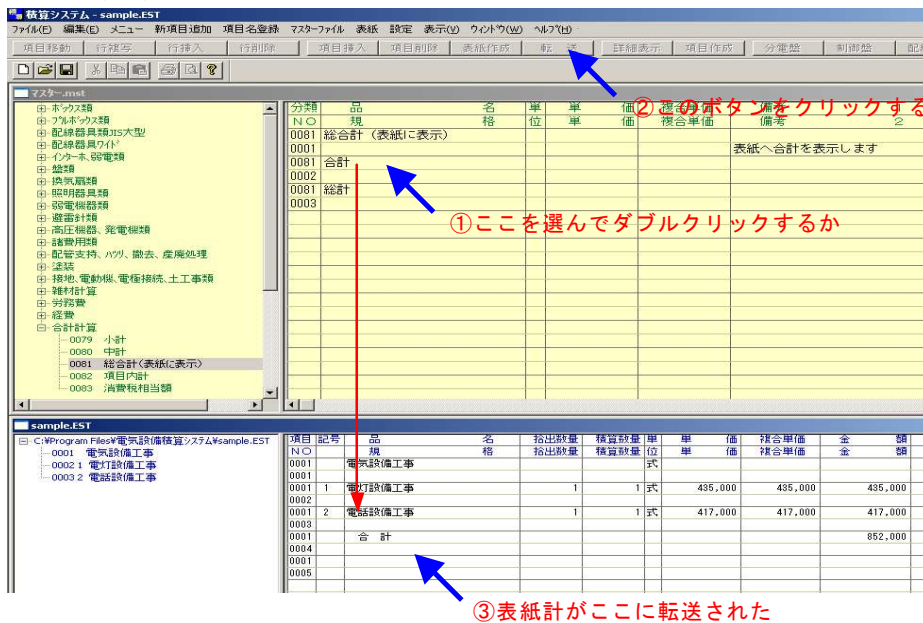
キーボード操作はF8に対応
しています。
※Tab キーでも同様の操作が
行えます

次に、合計（表紙計分類）を表示



合計入力ボタンを押して
合計入力ダイアログ表示するか
合計計算の総合計をクリックし
て総合計を表示して合計を
内訳作成ウィンドに転送

総合計分類が表示された

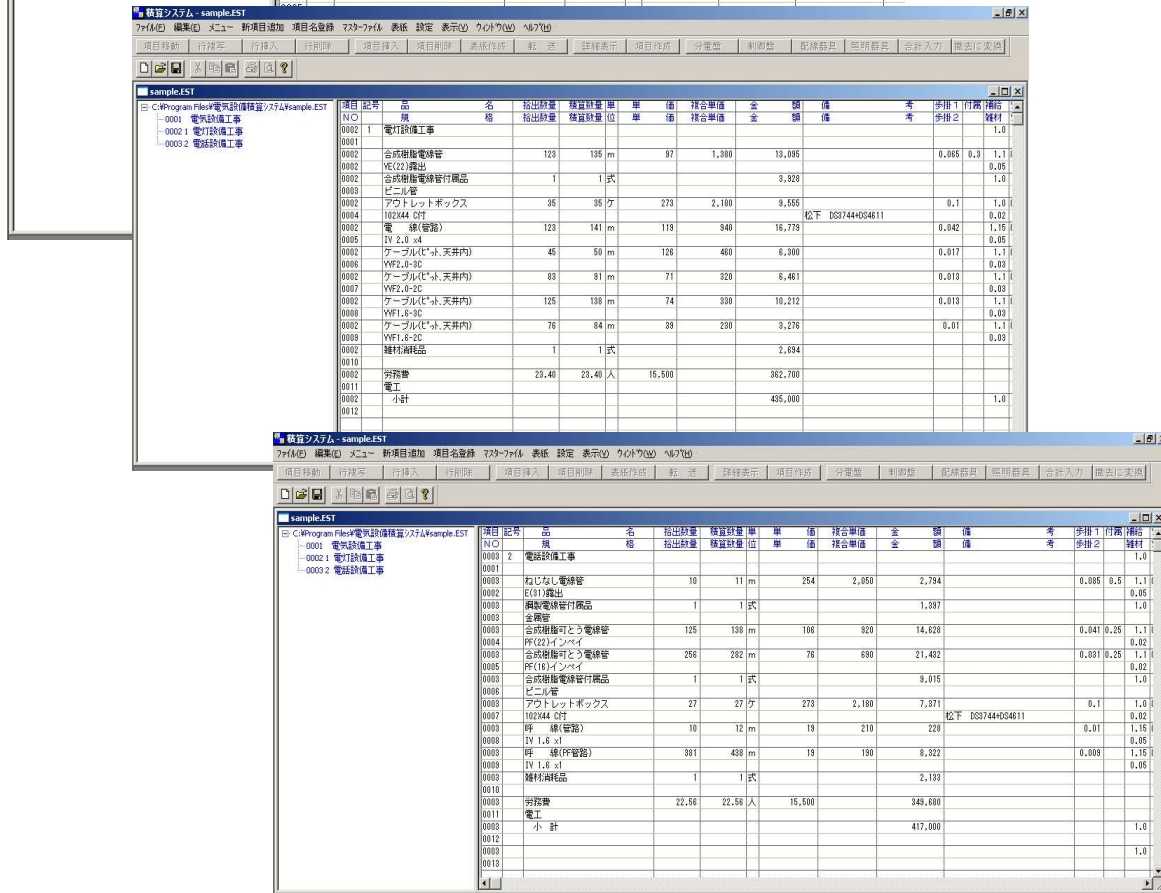


キーボード操作は F8 に対応しています。
 米 Tab キーでも同様の操作が行えます
 表紙に合計金額を表示するには総合計分類で合計を計算する必要があります。
 (総合計以外の計では表示されませんので必ず使用してください)
 5 行目の空行は行削除で必ず削除してください。
 印刷時ページの最終行+1 の場合空ページが印刷されます。

出来上がった各項目の内訳はこのようになっている

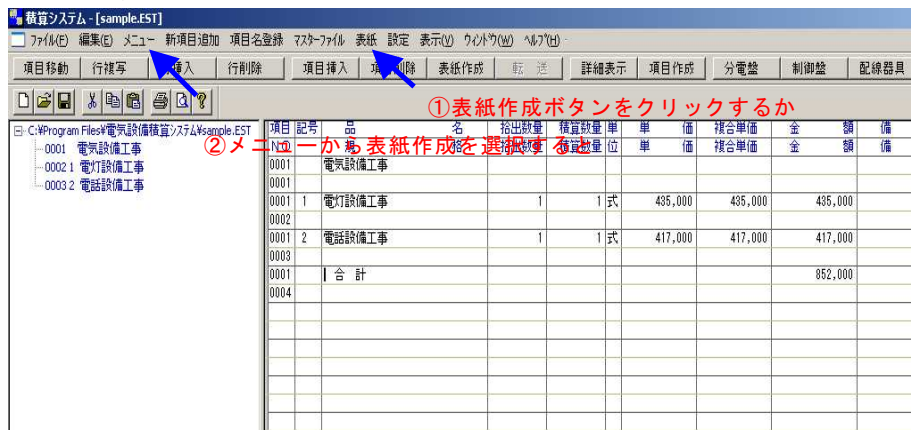


内訳作成画面の構成は以下のようになっています。
 1 項目：各項目の集計
 2 項目：1 の工事項目
 3 項目：2 の工事項目



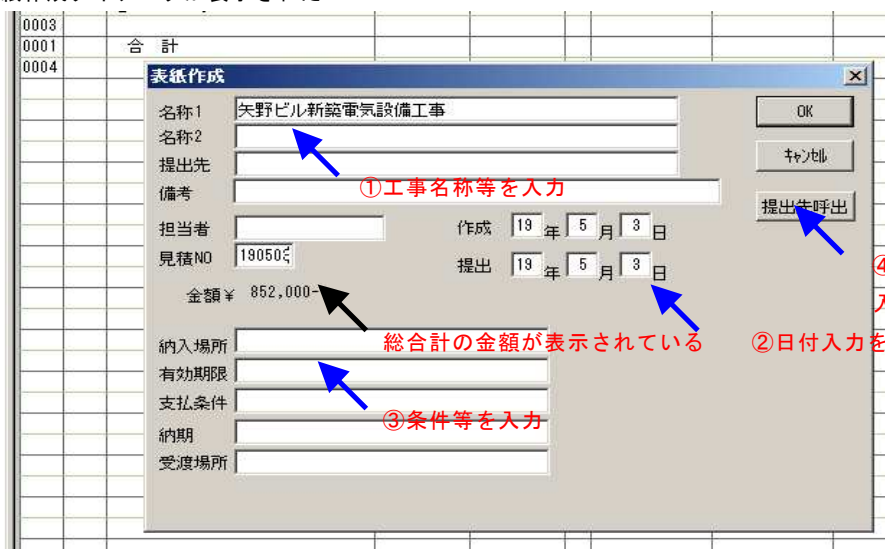
これで見積もりが完成しましたので次に表紙を作成します。

1-12、表紙を作成



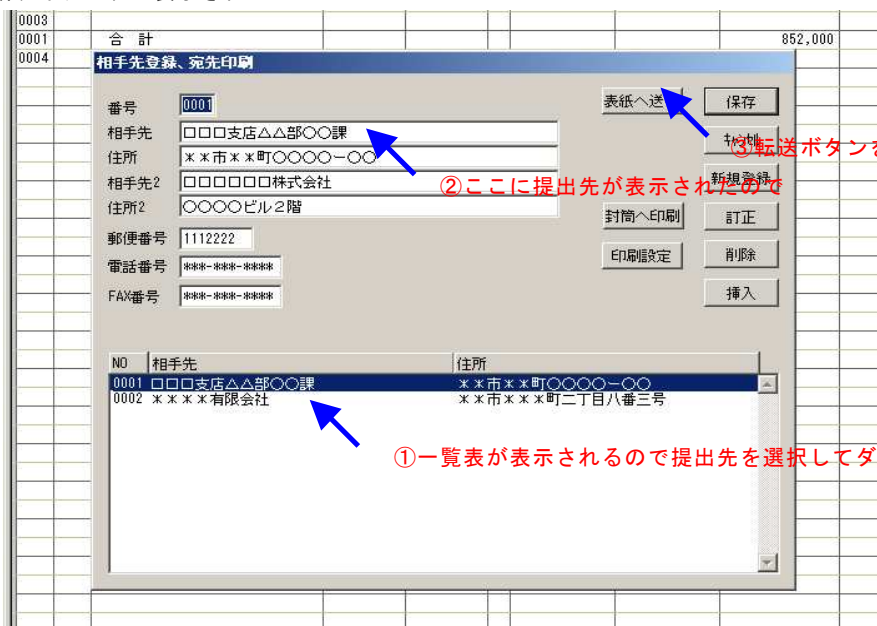
キーボード操作は F7 に対応しています。

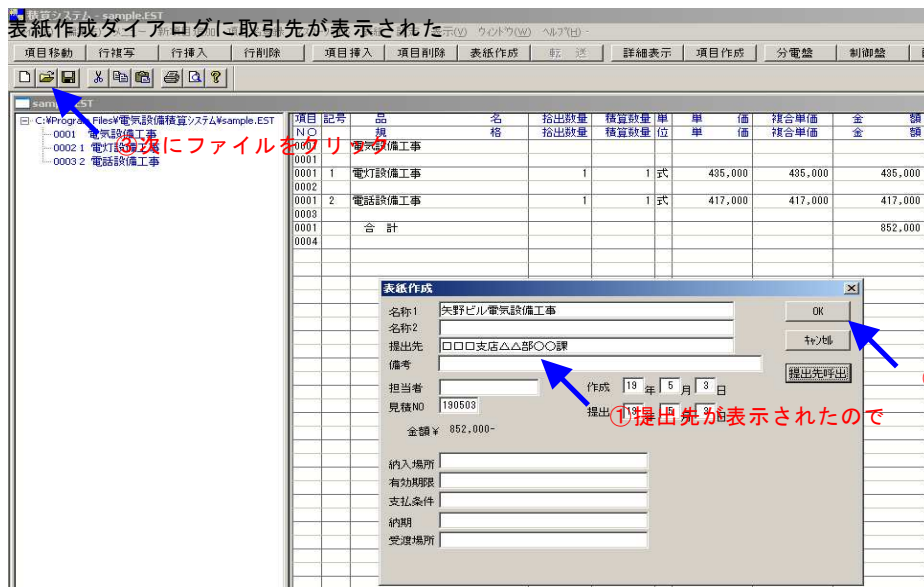
表紙作成ダイアログが表示された



提出先を入力するにはそのまま文字を打ち込むか、相手先ファイルに登録してある名称を表示して提出先に転送します。

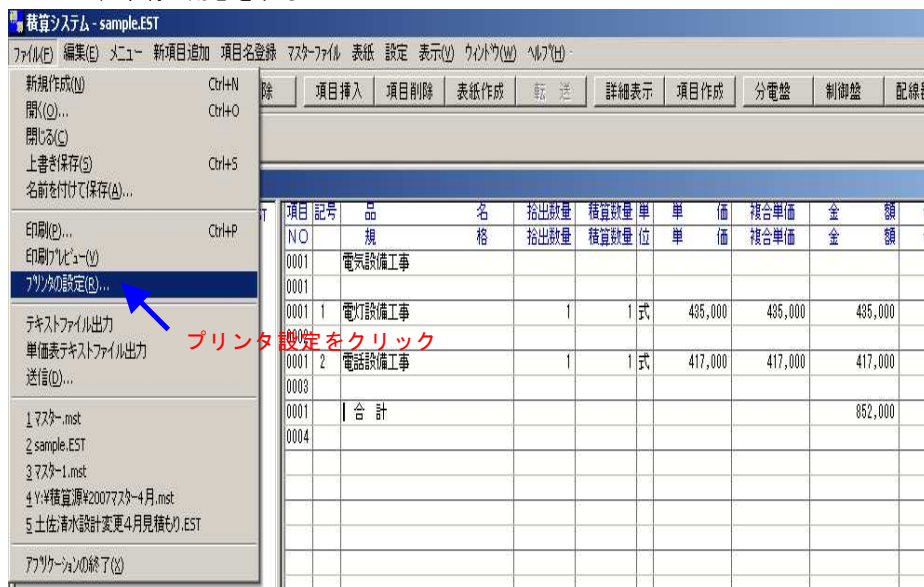
住所ダイアログが表示された



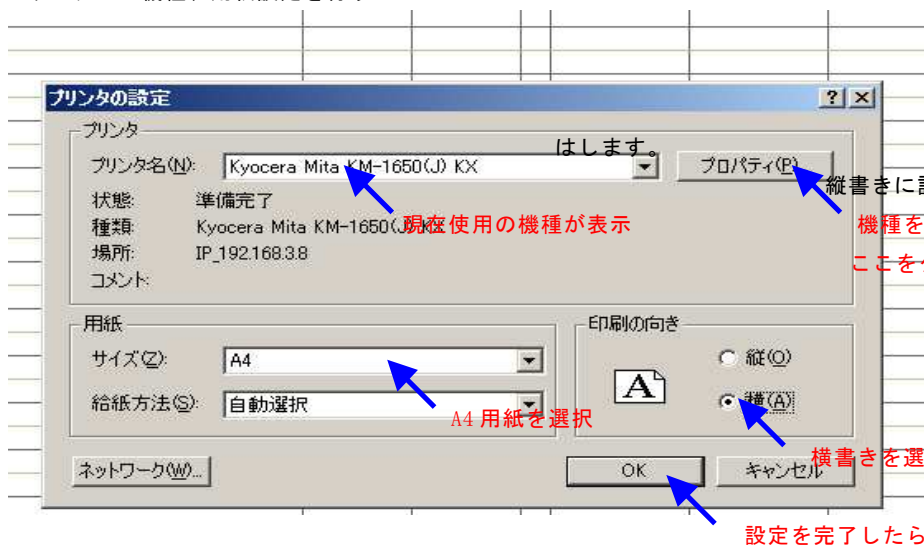


これで表紙作成が終了しましたので印刷プレビューで確認しましょう。それにはファイルをクリックします。

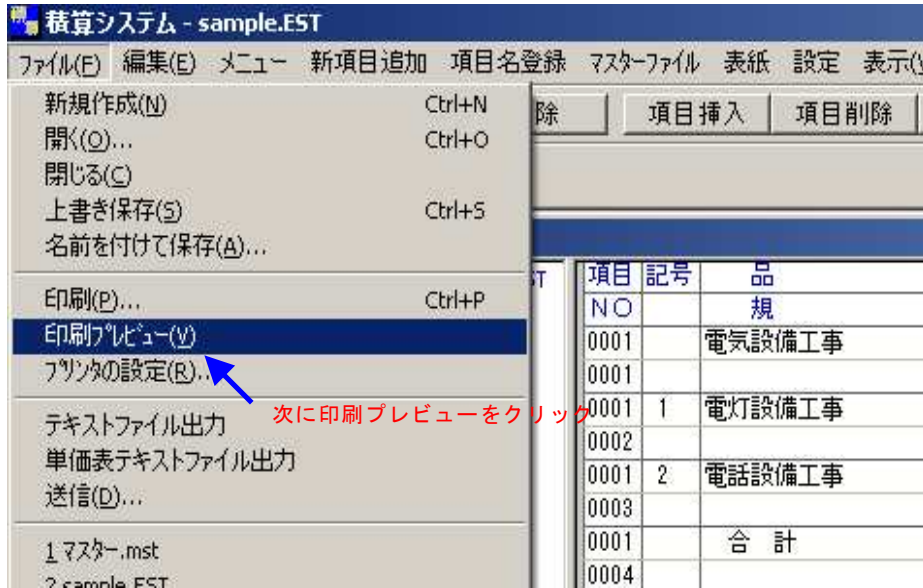
1-13、印刷の用意をする



プリンターの機種、用紙設定を行う



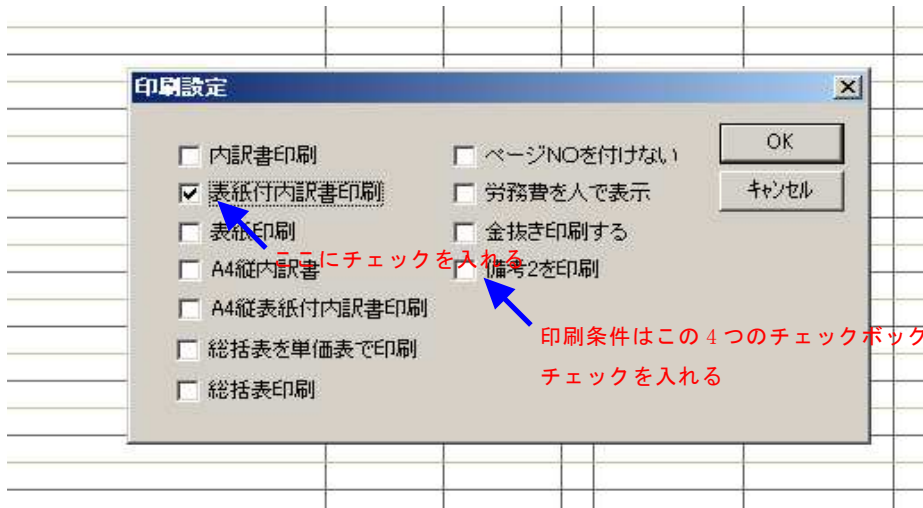
次に印刷プレビューを選択



直接印刷する場合は印刷を選択します。

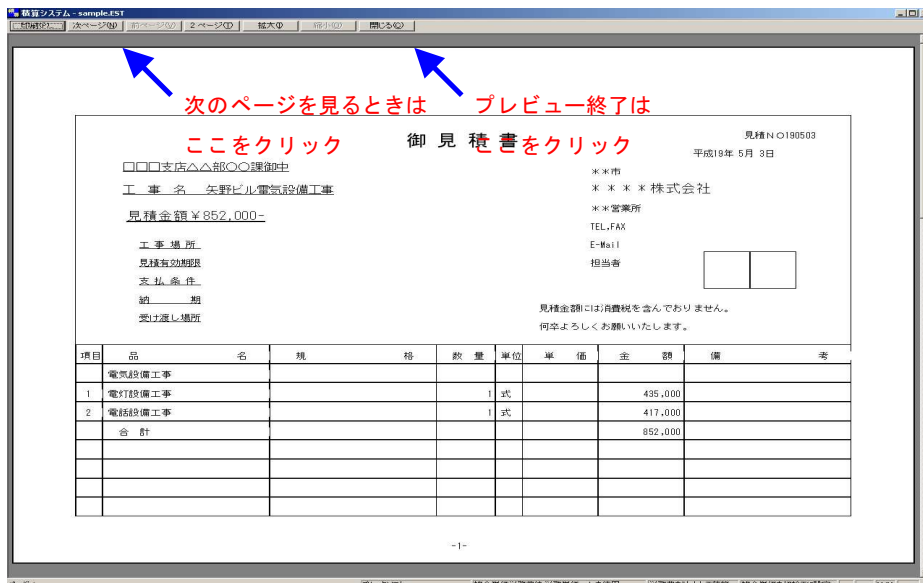
印刷する内容を一度画面に表示して内容をチェックする場合はプレビューを選択します。

印刷設定ダイアログが表示された



通常はこの表紙付内訳印刷を選択します

印刷プレビューの1枚目が表示された



表紙付内訳書の1枚目がA4の横書きで表示されます。表紙作成ダイアログで入力した工事名、提出先、条件、日付が表示されています。

2 ページ目が表示された

次のページを見るときは
ここをクリック

項目	品名	規	格	数量	単位	単価	金額	備	考
1	電灯設備工事								
	合成樹脂電線管	VE (22)	露出	135	m	97	13,095		
	合成樹脂電線管付属品	ビニル管		1	式		3,928		
	アウトレットボックス	102X44	6付	35	ヶ	273	9,555		
	電線(管路)	IV 2.0	x4	141	m	119	16,779		
	ケーブル(付*ト,天井内)	VVF2.0-3C		50	m	126	6,300		
	ケーブル(付*ト,天井内)	VVF2.0-2C		91	m	71	6,461		
	ケーブル(付*ト,天井内)	VVF1.6-3C		138	m	74	10,212		
	ケーブル(付*ト,天井内)	VVF1.6-2C		84	m	38	3,276		
	雑材消耗品			1	式		2,694		
	労務費	電工		1	式		362,700		
	小計						435,000		

3 ページ目が表示された

プレビュー終了は
ここをクリック

項目	品名	規	格	数量	単位	単価	金額	備	考
2	電話設備工事								
	ねじなし電線管	E (31)	露出	11	m	254	2,794		
	鋼製電線管付属品	金馬管		1	式		1,397		
	合成樹脂可とう電線管	PF (22)	インベイ	138	m	108	14,828		
	合成樹脂可とう電線管	PF (16)	インベイ	282	m	76	21,432		
	合成樹脂電線管付属品	ビニル管		1	式		9,015		
	アウトレットボックス	102X44	6付	27	ヶ	273	7,371		
	呼線(管路)	IV 1.6	x1	12	m	19	228		
	呼線(PF管路)	IV 1.6	x1	438	m	19	8,322		
	雑材消耗品			1	式		2,133		
	労務費	電工		1	式		348,880		
	小計						417,000		

印刷設定ダイアログで内訳書印刷を選択

ここにチェック

1 ページ目から内訳書形式で印刷したい場合は

1 ページ目を表示

項目	品名	規	格	数量	単位	単価	金額	備	考
1	電気設備工事			1	式		435,000		
2	電灯設備工事			1	式		417,000		
	合計						852,000		

このように 1 枚目から明細書形式で印刷されます。

1-14、作成した内訳書の保存

ファイル→新規作成で新しく内訳書を作成した時はファイルに名前がないので名前を付けて保存をクリックします。

以前に作成したファイルを読み込んで訂正して再保存する時は上書き保存をクリックします。また、そのファイルの名前を変えて保存したい時や別のディスク、またはホルダーに保存したい時は名前を付けて保存を選択します。

ファイル保存ダイアログが表示された

今回は sample.EST の名前で保存しましたが、通常はわかりやすい名前を付けて保存するとよいでしょう。

例：矢野ビル.EST
 .EST は自動的に付くので入力する必要はありません。
 この backup.EST は自動作成されるバックアップファイルで項目移動の度に更新されますのでシステムが動かなくなり再起動した場合にこのファイルを読み込めば表示されます。

第2章 データ構成

第1章で簡単な内訳書を作成しましたが、次にシステムのデータ構成について説明します。

2-1、1行のデータ内容を表示

項目記号	品名	規格	拾出数量	積算数量	単価	単価	複合単価	金額
0002 1	電灯設備工事							
0002	合成樹脂電線管	VE(22)露出	123	135	m	97	1,380	18,095
0002	合成樹脂電線管付属品	ピニル管	1	1	式			3,928
0002	アウトレットボックス	102X44 C付	35	35	ヶ	273	2,180	8,555
0002	電線(管路)		123	141	m	119	940	16,779
0005	IV 2.0 x4							
0002	ケーブル(ビッド,天井内)		45	50	m	126	460	6,300
0006	VVF2.0-3C							
0007	VVF2.0-2C		83	91	m	71	320	6,461
0002	ケーブル(ビッド,天井内)		125	138	m	74	330	10,212
0008	VVF1.6-3C							
0002	ケーブル(ビッド,天井内)		76	84	m	39	230	3,276
0009	VVF1.6-2C							
0002	雑材消耗品		1	1	式			2,694
0010								
0002	労務費		23.40	23.40	人	15,500		362,700
0011	電工							
0002	小計							435,000
0012								

1行のデータ構成内容

詳細ダイアログを表示して1行の内容を表示 内枠作成ウィンドウに表示されたデータと詳細ダイアログとの関連を矢印で示します。

②詳細表示ボタンを押して詳細ダイアログを表示

①ここを右クリックするか

ここに7品目入力できる

1行のデータ内容はこのように表示されます。

これはマスターファイルも共通です。(分類移動)

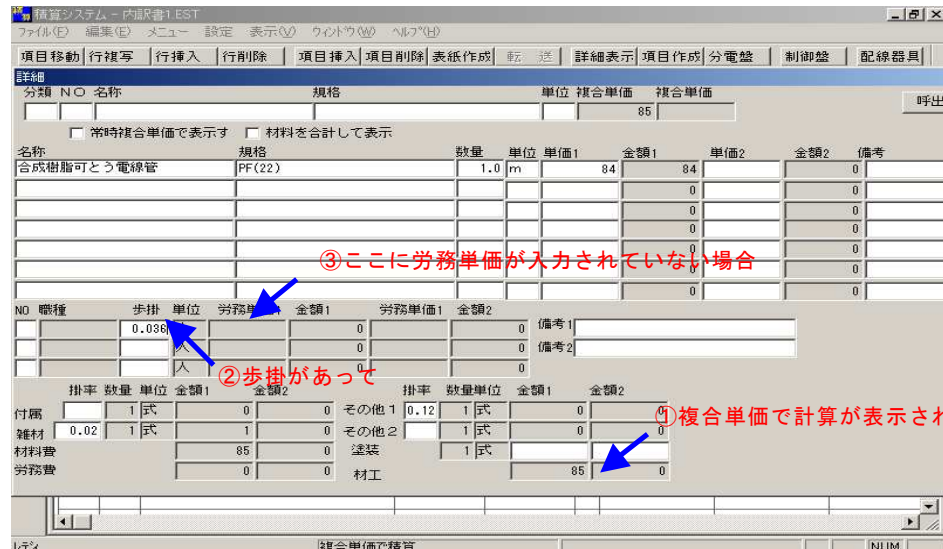
資材、単価、付属品、雑材、労務費、その他を入力すれば内訳書で付属品、雑材、労務費の行を自動計算されて表示されます。

また複合単価が表示されます。(複合単価で計算の場合必要)

通常は備考1を印刷

備考2を印刷する場合は印刷ダイアログで備考2を印刷を選択

2-2、新しくデータを入力する



①常時複合単価で表示にチェック入っているときは内訳作成画面の単価も複合単価で表示されます。

②2品目以上登録した場合に必ず複材をチェックしてください。そうしなければ1品目の単価しか表示されません。

③に歩掛が入力されて④に労務単価がない場合は複合単価が自動チェックされます

マスターファイルに登録されていないデータを新たに作成する時は詳細ダイアログを表示してここに入力していきます。

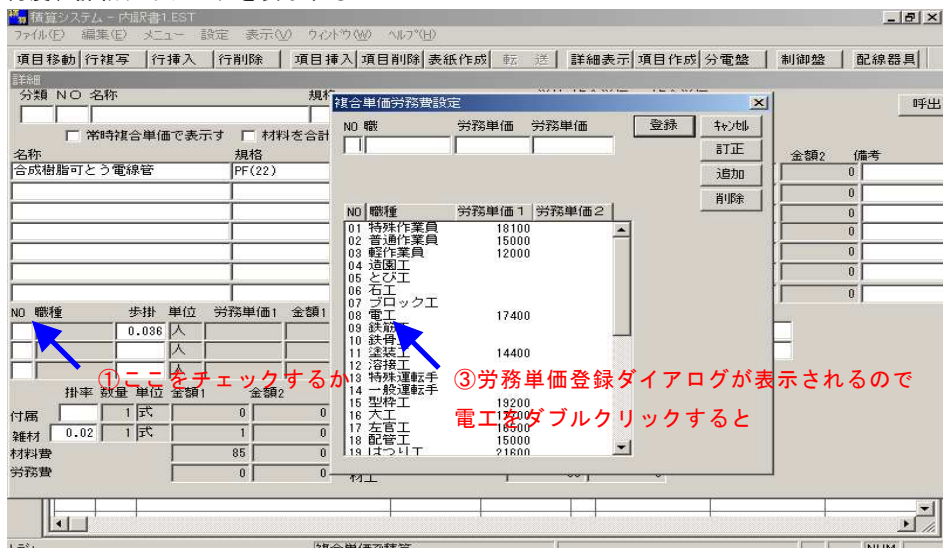
①、②、③の条件がそろった時にこのダイアログを閉じると

労務単価チェックのメッセージが表示される



労務単価が登録されていないので、労務費が計算されないのを自動的にチェックしてこのダイアログが表示されますのでOKボタンを押してチェックされた行にカーソルを移動してもう1度詳細ダイアログを表示します。

再度、詳細ダイアログを表示する



再び内訳作成画面にもどる

分類	NO	名称	規格	単位	複合単価	複合単価
						790

常時複合単価で表示す 材料を合計して表示

名称	規格	数量	単位	単価1	金額1
合成樹脂可とう電線管	PF(22)	1.0	m	84	84

NO	職種	歩掛	単位	労務単価1	金額1	労務単価1	金額2	備考1	備考2
08	電工	0.038	人	17400	626	0	0		

④ここに労務単価が入力されている

掛率	数量	単位	金額1	金額2	掛率	数量	単位	金額1	金額2

2-3、常時複合単価で表示された材料について

分類	NO	名称	規格	単位	複合単価	複合単価
		支線工事	38° 12m柱用	ヶ所		21900

常時複合単価で表示す 材料を合計して表示

名称	規格	数量	単位	単価1	金額1	単価2	金額2	備考
垂絡み綱より線	38°	11.0	m	84	924			建設物面 P4
ステーブロック	NO2	1	ヶ	2000	2000			建設物面P5.1
ステーブロック用ロット	18φ×2.300	1	本	2900	2900			建設物面P5.4
圧磚子	100×100	1	ヶ	535	535			建設物面P5.5
巻付けケーブル	3コア1線38°	2	本	335	670			建設物面P5.4
支線ケーブル	黄色2.2m	1	本		0			建設物面P5.4

NO	職種	歩掛	単位	労務単価1	金額1	労務単価1	金額2	備考1	備考2
08	電工	0.548	人	17400	9535	0	0		
02	普通作業員	0.235	人	15000	3525	0	0		材工共

掛率	数量	単位	金額1	金額2	掛率	数量	単位	金額1	金額2

ここがチェックされている

常時複合単価で表示するがチェックされている時は内訳作成ウィンドウの単価に複合単価が表示されます。これはマスターファイルのデータを示したのですがどちらも同じです。

次に材料を合計して表示された資材を示します

分類	NO	名称	規格	単位	複合単価	複合単価
		埋込スイッチ 大角型	1P15Ax1 新金P	ヶ		1830

常時複合単価で表示す 材料を合計して表示

名称	規格	数量	単位	単価1	金額1	単価2	金額2	備考
埋込スイッチ 大角型	1P15A	1.0	ヶ	100	100			
取り付け枠		28		28	28			
新金銅プレート	1-3P	1.0	枚	150	150			

NO	職種	歩掛	単位	労務単価1	金額1	労務単価1	金額2	備考1	備考2
08	電工	0.054	人	17400	938	0	0		建設物面 P520

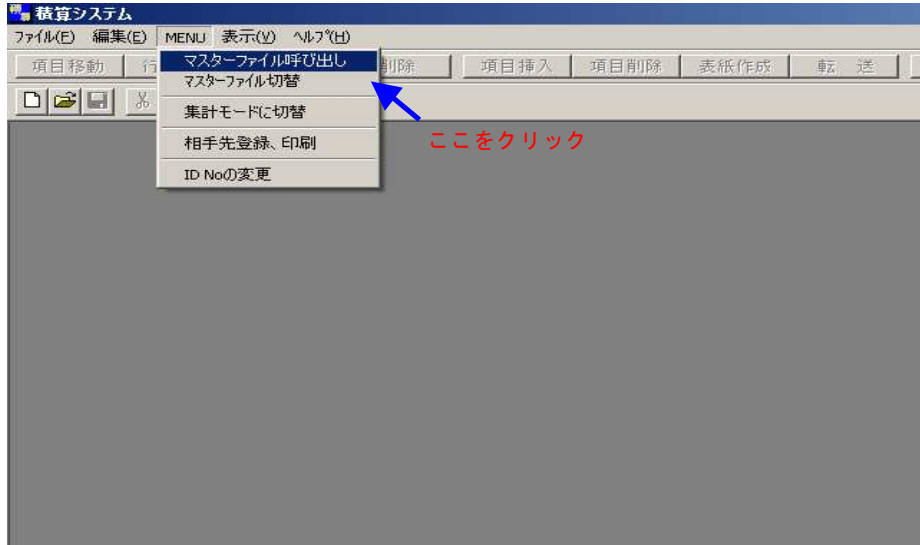
掛率	数量	単位	金額1	金額2	掛率	数量	単位	金額1	金額2

ここがチェックされている

材料を合計して表示するがチェックされている時は内訳作成ウィンドウの単価に材料費の合計が表示されます。これはマスターファイルのデータを示したのですがどちらも同じです。

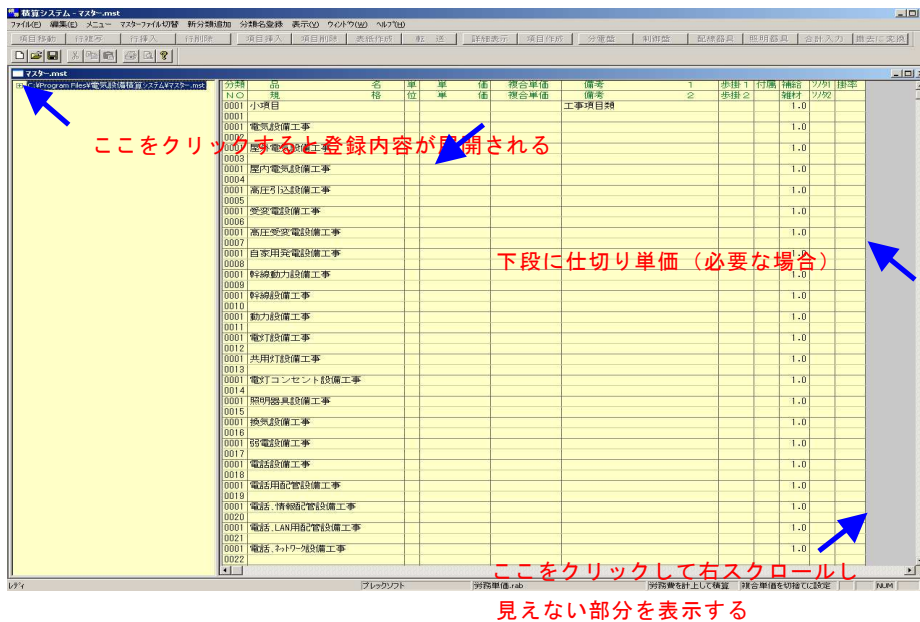
第3章 マスターファイルについて

マスターファイルは積算に必要な資材、計算式を分類べつに登録したファイルです。



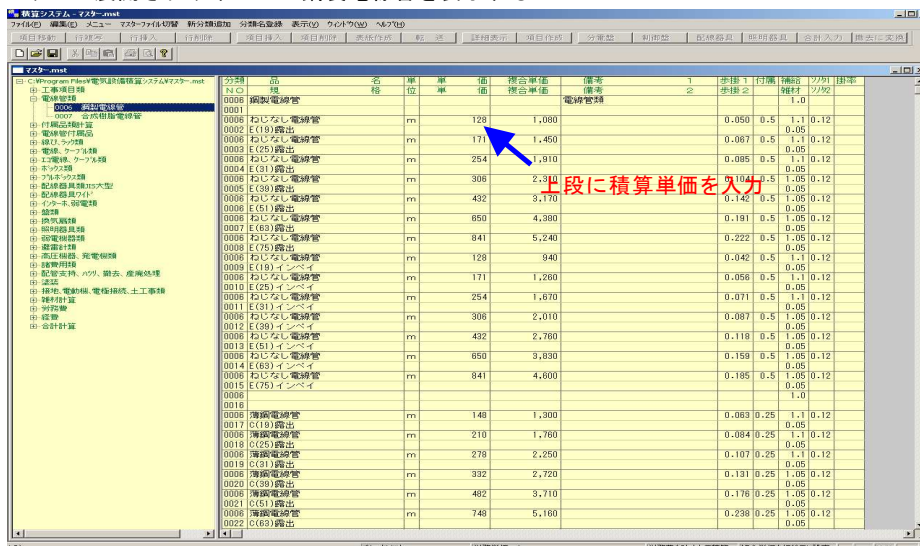
MENUからマスターファイルを呼び出す場合に“マスターファイルが登録されていません。新しくファイルを作成しますか？”のメッセージが表示される場合はいえをクリックしてマスターファイル切替でマスターファイルを選択して表示します。

3-1、材料分類について



初期ウィンドは小項目1分類目に登録した内容が表示される。

ツリーが展開されウィンドに鋼製電線管を表示する



品名、規格、単位、単価、備考歩掛が登録されています。
歩掛1に電工を入力
歩掛2に普通作業員
 歩掛に続いて付属品率、補給率、雑材率、その他1率、その他2率が入力されています。
 その他1は労務費のみの掛け率
 その他2は資材+労務費を合計したものの掛け率です。
 通常はその他1を使用します。
 その他2は機械設備工事の配管等に使用します。

分類表示の蛍光灯器具を選択

ここをクリックして蛍光灯器具を表示

分類	品名	規格	単位	単価	複合単価	備考	1	歩掛1	付属	補給	ツクリ	掛率
0002	照明器具		台			照明器具類				1.0		
0002	照明器具		台			照明器具類				1.0	0.12	
0002	図示		台		1,960	見積書による		0.113		0.05		1.0
0003	FL 10Wx1	直付	台		2,080	見積書による		0.120		0.05		1.0
0004	FL 15Wx1	直付	台		2,250	見積書による		0.130		0.05		1.0
0005	FL 20Wx1	直付	台		2,410	見積書による		0.139		0.05		1.0
0006	FL 30Wx1	直付	台		3,090	見積書による		0.178		0.05		1.0
0007	FHD100Wx1	直付	台		3,090	見積書による		0.178		0.05		1.0
0008	FL32/45Wx1	直付	台		3,620	見積書による		0.209		0.05		1.0
0009	FLR40Wx1	直付	台		6,780	見積書による		0.391		0.05		1.0
0010	FLR110Wx1	直付	台		2,410	見積書による		0.139		0.05		1.0
0011	FL 10Wx2	直付	台		2,860	見積書による		0.165		0.05		1.0

蛍光灯照明器具が表示された

単価は内訳作成ウィンドで入力

複合単価に(労務単価 x 6.06 + その他率)が表示されている

分類	品名	規格	単位	単価	複合単価	備考	1	歩掛1	付属	補給	ツクリ	掛率
0002	照明器具		台			照明器具類				1.0		
0002	照明器具		台			照明器具類				1.0	0.12	
0002	図示		台		1,960	見積書による		0.113		0.05		1.0
0003	FL 10Wx1	直付	台		2,080	見積書による		0.120		0.05		1.0
0004	FL 15Wx1	直付	台		2,250	見積書による		0.130		0.05		1.0
0005	FL 20Wx1	直付	台		2,410	見積書による		0.139		0.05		1.0
0006	FL 30Wx1	直付	台		3,090	見積書による		0.178		0.05		1.0
0007	FHD100Wx1	直付	台		3,090	見積書による		0.178		0.05		1.0
0008	FL32/45Wx1	直付	台		3,620	見積書による		0.209		0.05		1.0
0009	FLR40Wx1	直付	台		6,780	見積書による		0.391		0.05		1.0
0010	FLR110Wx1	直付	台		2,410	見積書による		0.139		0.05		1.0
0011	FL 10Wx2	直付	台		2,860	見積書による		0.165		0.05		1.0

蛍光灯照明器具はこの分類を選択して内訳作成ウィンドで品名に図面の照明器具の記号を入力、単価を入力します。

分類移動で鋼製電線管付属品を選択

ここをクリックして鋼製電線管付属品を表示

①鋼製電線管付属品ダブルクリックするか

分類	品名	規格	単位	単価	複合単価	備考	1	歩掛1	付属	補給	ツクリ	掛率
0002	鋼製電線管付属品		式			鋼製電線管付属品				1.0		
0002	鋼製電線管付属品		式			鋼製電線管付属品				1.0		

3-2、計算分類について

新分類追加 分類名登録 表示(Y) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

行削除 項目挿入 項目削除 表紙作成 転送 詳細表示 項目作成 分電盤 制御盤 配線器具 照明器具 合計

分類NO	品規	名 格	単 位	単 価	複合単価	備考	1	歩掛1	付属	補給	別
				単 価	複合単価	備考	2	歩掛2		雑材	別
0008	鋼製電線管付属品					付属品類計算				1.0	
0001											
0008	鋼製電線管付属品		式			1 行目は見出し				1.0	
0002	金属管										
0008										1.0	
0003						この行以降を使用					

ここからが自動で計算する分類です（労務費を計上して積算）モードで有効になります。この分類番号が鋼製電線管付属品の計算に割り当てられていますので内訳書にこの分類を転送すれば自動で計算されます。（複合単価で計算では付属品は複合単価に組み込まれますので付属品金額は表示されません）設定-演算分類設定で演算の分類を設定します。

同様に雑材消耗品分類を表示する

新分類追加 分類名登録 表示(Y) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

行削除 項目挿入 項目削除 表紙作成 転送 詳細表示 項目作成 分電盤

分類NO	品規	名 格	単 位	単 価	複合単価	備考	1	歩掛1	付属	補給	別
				単 価	複合単価	備考	2	歩掛2		雑材	別
0073	雑材消耗品					雑材計算					
0001											
0073	雑材消耗品		式			1 行目は見出し					
0002						この行以降を使用					

この分類番号が雑材、消耗品の計算に割り当てられていますので内訳書にこの分類を転送すれば自動で計算され

（労務費を計上して積算）モードで有効になります。

同様に労務費 1 分類を表示する

新分類追加 分類名登録 表示(Y) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

行削除 項目挿入 項目削除 表紙作成 転送 詳細表示 項目作成 分電盤 制御盤 配線器具

分類NO	品規	名 格	単 位	単 価	複合単価	備考	1	歩掛1	付属	補給	別
				単 価	複合単価	備考	2	歩掛2		雑材	別
0074	労務費(電工)					労務費					
0001											
0074	労務費		人	15,500		1 行目は見出し					
0002	電工					この行以降を使用					
0074	労務費		人	15,300	15,300	この単価で計算される					
0003	電工										
0074											
0004											

この分類番号が労務費 1 の計算に割り当てられていますので内訳書にこの分類を転送すれば自動で計算されます。（労務費を計上して積算）モードで有効になります。

注：複合単価の労務費はこの分類とは別の労務単価データを使用していますので労務単価が一致していない場合は複合単価と合わなくなります。※労務単価設定を参照

同様に諸経費分類を表示する

分類	品名	規格	単位	単価	複合単価	備考	1	歩掛1	付属	補給	別掛	掛率
NO	規	格	位	単	複合単価	備考	2	歩掛2	雑材	別掛		
0078	諸経費					経費						0.10
0001												
0078	諸経費		式									0.10
0002												
0078	一般管理費		式									
0003												
0078	現場経費		式									
0004												
0078	共通仮設費		式									0.03
0005												
0078			式									
0006												

この分類番号が諸経費の計算に割り当てられていますので内訳書にこの分類を転送すれば自動で計算されます。
(労務費を計上して積算)モードで有効になります。

同様に小計分類を表示する

分類	品名	規格	単位	単価	複合単価	備考	1
NO	規	格	位	単	複合単価	備考	2
0079	小計					合計計算	
0001						各項目の小計を表示します	
0079	小計						
0002							
0079	計						
0003							
0079	合計						
0004							

この分類番号が小計の計算に割り当てられていますので内訳書にこの分類を転送すれば自動で計算されます。各項目の合計(小計)をこの分類で計算します。

同様に総合計分類を表示する

分類	品名	規格	単位	単価	複合単価	備考	1
NO	規	格	位	単	複合単価	備考	2
0081	総合計(表紙に表示)						
0001						表紙へ合計を表示します	
0081	合計						
0002							
0081	総計						
0003							

この分類番号が総合計の計算に割り当てられていますので内訳書にこの分類を転送すれば自動で計算されます。これは表紙付内訳書で表紙に金額¥○○○,○○○円-を表示する場合に使用します。小項目集計(1項目)の合計等に使用します。
※表紙に合計を表示する場合は表紙に出力する項目に必ずこの計算分類を使用します。

同様に項目内計分類を表示する

分類 NO	品 規	名 格	単 位	単 価	複 合 単 価	複 合 単 価	備 考	1 2
0082	項目内計							2
0001							各項目内のこの行までを合計	
0082	小計							
0002								
0082	計							
0003								
0082	合計							
0004								
0082	材料費計							
0005								
0082	労務費計							
0006								
0082	直接工事費計							
0007								

この分類番号が項目内計の計算に割り当てられていますので内訳書にこの分類を転送すれば自動で計算されます。これは各項目内で材料と材料材料と労務費の間を小計で区切りたい場合等に使用します。
注：労務費は項目内計には関係なく1項目のデータすべてを計算します。

3-3、大、中、小項目分類を表示する

分類 NO	品 規	名 格	単 位	単 価	複 合 単 価	複 合 単 価	備 考	1 2
0001	小項目						工事項目類	2
0001	電気設備工事							
0002								
0001	屋外電気設備工事							
0003								
0001	屋内電気設備工事							
0004								
0001	高圧引込設備工事							
0005								
0001	受変電設備工事							
0006								
0001	高圧受変電設備工事							
0007								
0001	自家発電設備工事							
0008								
0001	幹線動力設備工事							
0009								

この分類番号が小項目の表示に割り当てられていますので内訳書にこの分類を転送して各項目を作成すれば各項目の集計を表示した時に内訳書の記号と分類が一致していれば金額が自動的に計算されて表示されます。
1-4を参照

同様に中項目分類を表示する

分類 NO	品 規	名 格	単 位	単 価	複 合 単 価	複 合 単 価	備 考	1 2
0002	中項目							2
0001								
0002	屋外工事		式					
0002								
0002	屋内工事		式					
0003								
0002	構内線路		式					
0004								
0002	電気設備工事		式					
0005								
0002	A棟電気設備工事		戸					
0006								
0002	B棟電気設備工事		戸					
0007								
0002	C棟電気設備工事		戸					
0008								
0002	直接工事費		式					
0009								
0002								
0010								

この分類番号が中項目の表示に割り当てられていますので内訳書の項目集計の項目の上に上位項目(中項目)を作成したい時にこの分類を使用します。記号と分類が一致していれば金額が自動的に計算されて表示されます。

同様に大項目分類を表示する

分類	品名	規格	単位	単価	複合単価	備考
NO	規	格	位	単	複	備
0003	大項目					
0001						
0003	直接工事費					
0002						
0003	電気設備工事		式			
0003						

この分類番号が大項目の表示に割り当てられていますので内訳書の項目集計の項目の上に上位項目(大項目)を作成したい時にこの分類を使用します。記号と分類が一致していれば金額が自動的に計算されて表示されます。

以上でマスターファイルの内容について説明しましたがこのファイルを自社の単価にあわせてカスタマイズする事も資材を追加登録することも新規に作成して、独自の新たなファイルを作成する事もできます。いずれにしても元のファイルは残すようにして名前を付けて保存で別のファイル名の物を変更したほうがよいでしょう。
データを新規作成、追加登録する場合はF8キーで詳細ダイアログを表示してそこに入力します。

3-4、詳細ダイアログを表示

積算システム - [マスター.mst]

ファイル(F) 編集(E) メニュー 表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

項目移動 行複写 行挿入 行削除 項目挿入 項目削除 表紙作成 転送 詳細表示 小項目作 分電盤 制御盤 配線器具

詳細

分類 NO	名称	規格	単位	複合単価	複合単価
	埋込スイッチ 大角型 (ネ付)	1P15Ax3+Lx1 新金P	ケ	4270	

常時複合単価で表示す 材料を合計して表示

名称	規格	数量	単位	単価1	金額1	単価2	金額2	備考
埋込スイッチ 大角型 (ネ付)	1P15A	3.0	ケ	168	504		0	
埋込スイッチ 大角型 (ネ付)	1P4A ON表示灯付き	1.0	ケ	743	743		0	
取り付け枠		2.0	ケ	34	68		0	
新金属プレート	4-6P	1.0	枚	372	372		0	
					0		0	
					0		0	
					0		0	

この部分にも入力するため詳細ダイアログを表示する必要がある

NO	職種	歩掛	単位	労務単価1	金額1	労務単価1	金額2
08	電工	0.135	人	16900	2281		0
			人		0		0
			人		0		0

掛率	数量	単位	金額1	金額2	掛率	数量	単位	金額1	金額2	
	1	式	0	0	その他1	0.12	1	式	273	0
付属					その他2		1	式	0	0
雑材	0.02	1	式	93	0					
材料費			1720	0	塗装	1	式			
労務費			2281	0	材工			4274	0	

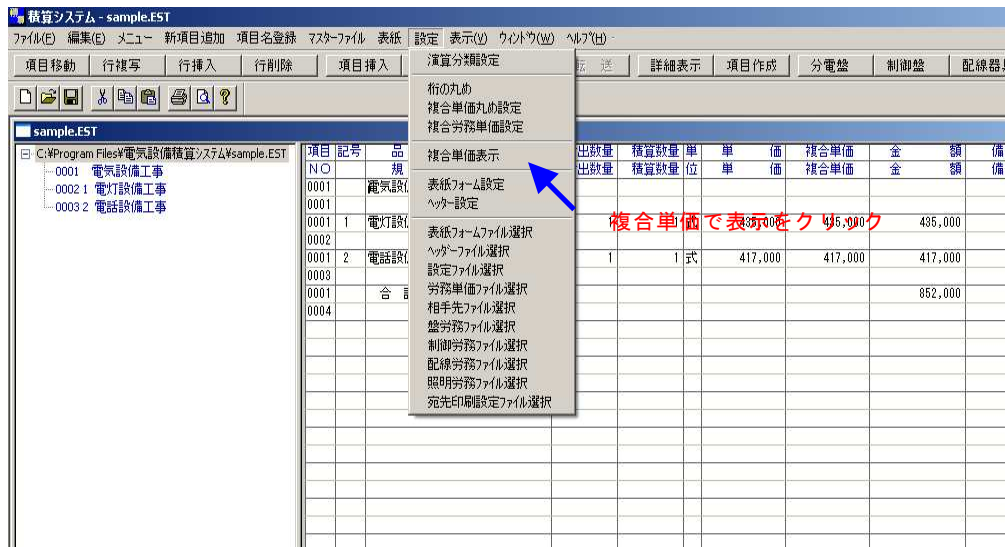
第4章 特徴と機能

4-1、複合単価計算

このシステムの特徴は内訳書を複合単価（資材に労務費、付属品、雑剤等を含めた単価）モードで積算か、労務費を計上して積算モード（資材と労務費、付属品、雑材等を別に計上）を選択して作成できます。

またすでに労務費を計上して作成した内訳書を複合単価の内訳に変更することも、逆に複合単価で作成した内訳書を労務費を計上して積算の内訳書に変更する事もできます。

それでは最初に作成した内訳書を複合単価で計算に変更してみましょう。



複合単価表示ダイアログが表示されるので



ここにチェック (し) を入れる

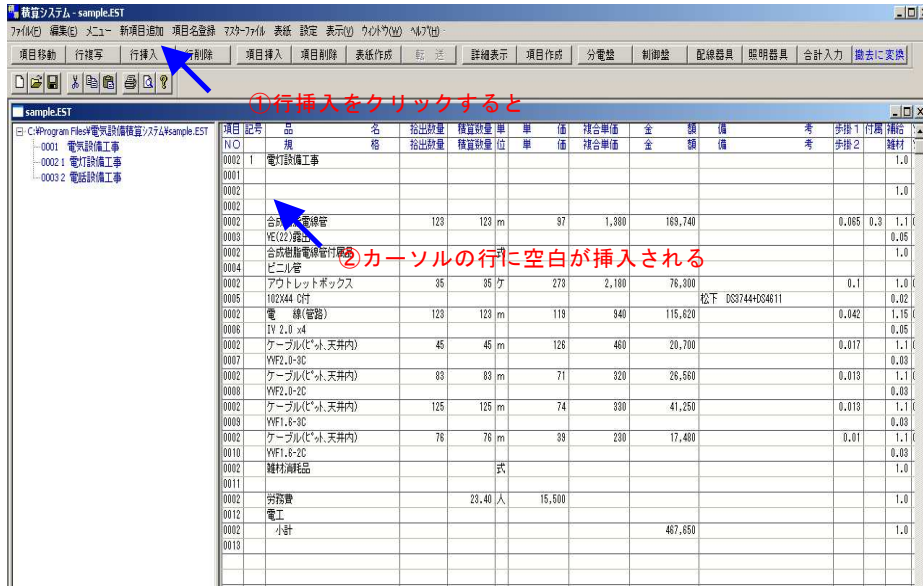
複合単価明細書に切り替わる

項目記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	複合単価	金額	備
0002 1	電灯設備工事						
0001							
0002	合成樹脂電線管	123	123	m	97	1,880	169,740
0002	VE(22)露出						0.065 0.3 1.1
0002	合成樹脂電線管付属品						0.05 1.0
0003	ビニル管						
0002	アウトレットボックス	35	35	ヶ	273		76,300
0004	102x44 CH						松下 DS8744+DS4611
0002	電線(管路)	123	123	m	119	840	115,620
0005	IV 2.0 x4						20,700
0002	ケーブル(ボ、天井内)	45	45	m	126	460	20,700
0006	WF2.0-8C						0.017 1.1
0002	ケーブル(ボ、天井内)	83	83	m	71	320	26,560
0007	WF2.0-2C						0.018 0.03 1.1
0002	ケーブル(ボ、天井内)	125	125	m	74	330	41,250
0008	WF1.8-8C						0.013 0.03 1.1
0002	ケーブル(ボ、天井内)	76	76	m	89	230	17,400
0009	WF1.8-2C						0.01 0.03 1.1
0002	雑材消耗品						
0010							
0002	労務費		29.40	人	15.300		
0011	電工						
0002	小計						1.0
0012							

複合単価で表示モードに切り替えると付属品、雑材、労務費は資材に含まれ材工共の単価になりますので付属品等の金額が表示されない行は不要になりますのでそれらを行削除で削除します。

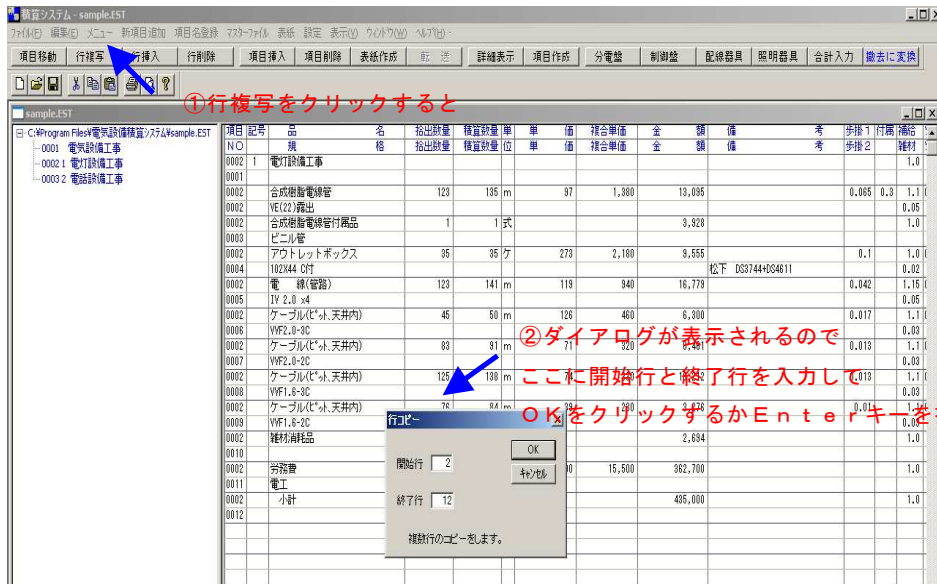
注：逆に複合単価で計算モードから労務費を計上して積算モードに変更した場合は、付属品、雑材、労務費を入力する必要があります。

4-2、空白行を挿入、削除する



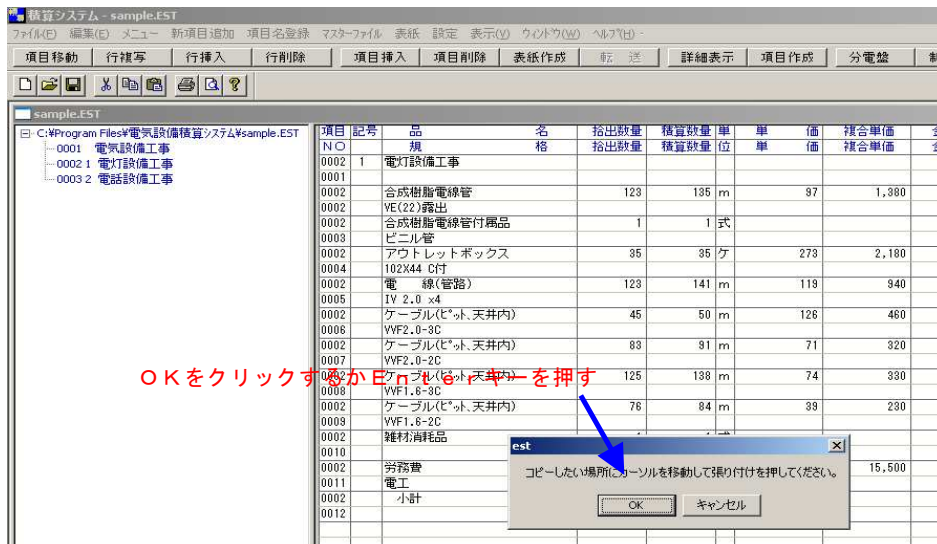
キーボード操作は F3 に対応しています。
次に行削除をクリックするか F4 キーを押すと空白行（カーソル）の表示されている行が削除されて以降の行が 1 行上に繰り上げられます。

4-3、行を指定して複写する



キーボード操作は F2 に対応しています。
ここでは開始行に 2、終了行に 12 を入力してみます。

コピー先ダイアログが表示される



2~12 行まで記憶しましたのでこれを指定場所へ書き込みます。
この項目内に書き込むこともできますがコピー先を新しい項目に指定してみます。

新規項目を表示する

① 新規項目追加をクリックすると

② 新規項目追加ダイアログが表示されるので OK をクリックするか、Enter キーを押す

項目記号	品名	抽出数量	積算数量	単価	複合単価	金額
0001	電気設備工事					
0002	電気設備工事					
0003	電気設備工事					
0001	電気設備工事					
0002	合成樹脂電線管	123	135	m	97	1,380
0002	VE(22)露出					
0002	合成樹脂電線管付属品	1	1	式		
0003	ビニル管					
0002	アウトレットボックス	35	35	ヶ	273	2,180
0004	102X44 C付					
0002	電線(管路)	123	141	m	119	940
0005	IV 2.0 x4					
0002	ケーブル(ビニル,天井内)	45	50	m	126	460
0006	YWF2.0-3C					
0002	ケーブル(ビニル,天井内)	83	91	m	71	320
0007	YWF2.0-2C					
0002	ケーブル(ビニル,天井内)	125	138	m	74	330
0008	YWF1.8-3C					
0002	ケーブル(ビニル,天井内)	78	84	m	39	230
0009	YWF1.8-2C					
0010	労務費	23.40	23.40	人	15,500	362,700
0002	電工					
0011	電工					
0002	小計					455,000
0012						

新規に項目 4 を表示する。

新規項目 4 に書き込む

① 行目をクリックしてカーソルをここに移動して

② 貼り付けをクリックするか、Ctrl キーを同時に押す

項目記号	品名	抽出数量	積算数量	単価	複合単価	金額
0004	合成樹脂電線管	123	135	m	97	13,095
0001	VE(22)露出					0,085
0004	合成樹脂電線管付属品	1	1	式		1,0
0002	ビニル管					0,02
0004	アウトレットボックス	35	35	ヶ	273	9,655
0003	102X44 C付					0,042
0004	電線(管路)	123	141	m	119	16,778
0004	IV 2.0 x4					0,085
0004	ケーブル(ビニル,天井内)	45	50	m	126	6,300
0005	YWF2.0-3C					0,083
0004	ケーブル(ビニル,天井内)	83	91	m	71	6,461
0006	YWF2.0-2C					0,083
0004	ケーブル(ビニル,天井内)	125	138	m	74	10,212
0007	YWF1.8-3C					0,083
0004	ケーブル(ビニル,天井内)	78	84	m	39	3,278
0008	YWF1.8-2C					0,083
0004	雑材消耗品	1	1	式		2,894
0009						1,0
0004	労務費	23.40	23.40	人	15,500	362,700
0010	電工					1,0
0004	小計					455,000
0011						1,0
0004						1,0
0012						1,0

新規の 4 項目が作成されるので左図の操作を行えば 2 項目で記憶した 2~12 行目のデータが 4 項目に 1 行目から書き込まれます。

4-4、項目を挿入する

① 3 行目の電気設備工事をクリックして

② カーソルをここに移動して

項目記号	品名	抽出数量	積算数量	単価	複合単価	金額
0001	電気設備工事					
0002	電気設備工事					
0003	電気設備工事					
0004	合成樹脂電線管					
0003	ねじなし電線管	10	11	m	254	2,850
0002	E(3)露出					
0003	合成樹脂電線管付属品	1	1	式		387
0003	金剛管					0,085
0002	合成樹脂電線管	256	282	m	76	630
0005	PF(16)インハイ					21,422
0003	合成樹脂電線管付属品	1	1	式		9,015
0006	ビニル管					0,085
0008	アウトレットボックス	27	27	ヶ	273	7,371
0007	102X44 C付					0,1
0003	電線(管路)	10	12	m	19	210
0008	IV 1.8 x1					0,01
0003	電線(管路)	381	439	m	19	8,322
0009	IV 1.8 x1					0,009
0003	雑材消耗品	1	1	式		2,133
0010						0,06
0003	労務費	22.56	22.56	人	15,500	348,880
0011	電工					
0003	小計					417,000
0012						1,0
0003						1,0
0013						1,0

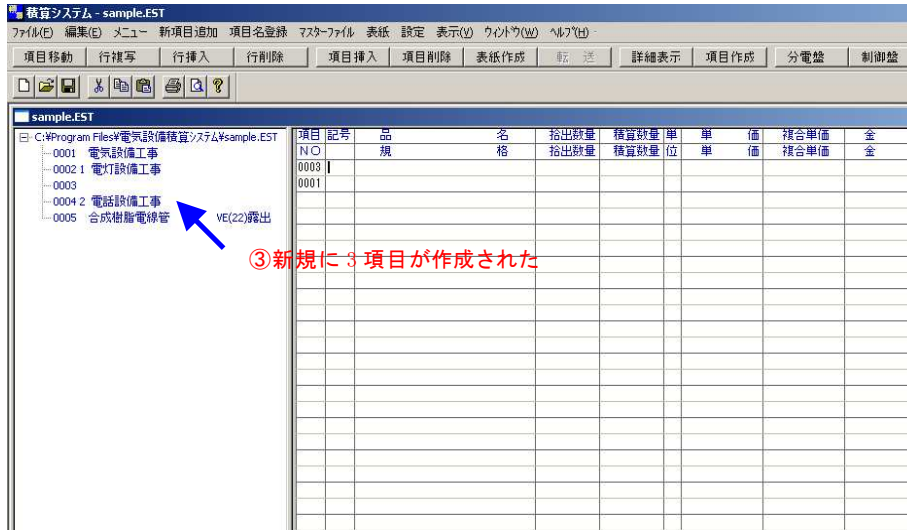
1~3 項目まで内訳が作成されている時に 2 と 3 項目の間に新たに項目を作成したい時があります。その手順を以下に示します。

項目移動で2項目を表示する



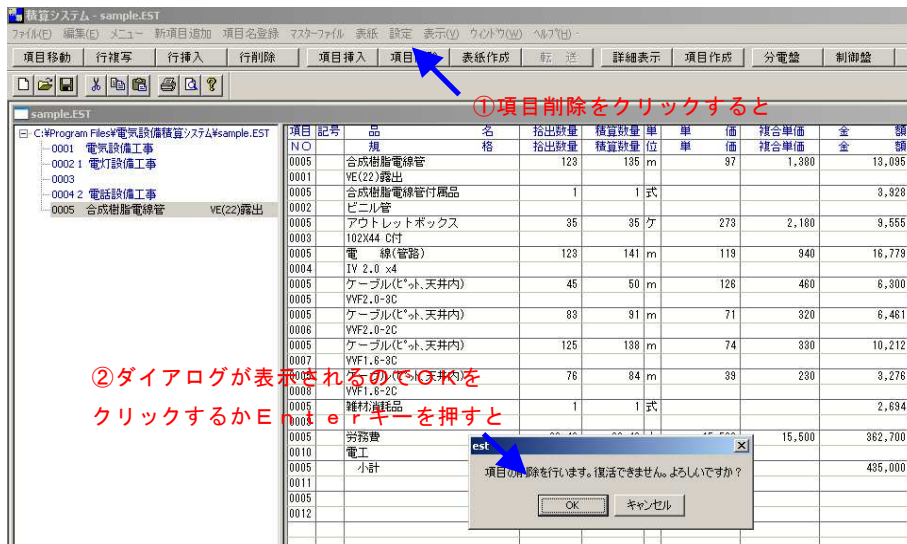
キーボード操作はF5に対応しています。

項目が挿入された



もとの3項目が4項目に繰り下げられて新しく3項目が作成されていますのでここに新たに内訳を作成していきます。次に新規に追加された5項目を削除してみましょう。

4-5、項目を削除する



キーボード操作はF6に対応しています。

項目が削除された

項目記号	品名	拾出数量	種量数量	単価	複合単価	金額
0004 2	電話設備工事					
0001	規					
0004	ねじなし電線管	10	11 m	254	2,050	2,794
0002	E(31)露出					
0004	銅製電線管付属品	1	1 式			1,397
0003	金具管					
0004	合成樹脂可とう電線管	125	138 m	106	920	14,628
0004	PF(22)インベイ					
0004	合成樹脂可とう電線管	256	282 m	76	690	21,432
0005	PF(18)インベイ					
0004	合成樹脂電線管付属品	1	1 式			9,015
0006	ビニル管					
0004	アウトレットボックス	27	27 ケ	273	2,180	7,371
0007	102X44 C付					
0004	呼線(管路)	10	12 m	19	210	228
0008	IV 1.8 x1					
0004	呼線(PF管路)	381	488 m	19	190	8,322
0009	IV 1.8 x1					
0004	種材消耗品	1	1 式			2,138
0010						
0004	労務費	22.56	22.56 人	15,500		349,680
0011	電工					
0004	小計					417,000
0012						
0004						
0013						

5項目が削除されて4項目が表示されました。同様に3項目も削除したい時は3項目を表示して同様の操作を行います。

4-6、単価を変換する

単価変換

- 単価変換
- 数量変換
- 撤去歩掛けに変換
- その他労務費削除
- 備考2削除
- 常時複合単価表示
- 内訳書に単価NO記入
- 労務費計上構式に変更
- 複合単価構式に変更
- 盤労務費計算
- 制御盤労務費計算
- 配線器具労務費計算
- 照明器具労務費計算

項目記号	品名	拾出数量	種量数量	単価	複合単価	金額
0002 1	電灯設備工事					
0001	規					
0002	合成樹脂電線管	125	135 m	97	1,380	13,095
0002	VE(22)露出					
0002	合成樹脂電線管付属品	1	1 式			3,928
0003	ビニル管					
0002	アウトレットボックス	35	35 ケ	273	2,180	9,555
0004	102X44 C付					
0002	電線(管路)	123	141 m	119	940	16,779
0005	IV 2.0 x4					
0002	ケーブル(ビト、天井内)	45	50 m	126	460	6,300
0006	YVF2.0-3C					
0002	ケーブル(ビト、天井内)	83	91 m	71	320	6,461
0007	YVF2.0-2C					
0002	ケーブル(ビト、天井内)	125	138 m	74	330	10,212
0008	YVF1.8-3C					
0002	ケーブル(ビト、天井内)	76	84 m	39	280	3,276
0009	YVF1.8-2C					
0002	種材消耗品	1	1 式			2,694
0010						
0002	労務費	23.40	23.40 人	15,500	15,500	362,700
0011	電工					
0002	小計					485,000
0012						

作成した内訳書の単価を変更する必要がある場合各行で単価を変えなくても分類を指定して一括で変更する事が出来ます。これはマスターファイルも同様に出来ますので自社に合った単価のマスターファイルを作成する事が出来ます。

単価変換ダイアログが表示された

単価変換

開始分類: 7 ~ 終了分類: 14

掛率: 2

指定項目: 2

分類ごとに単価を一括変換

指定項目は2(表示されている項目を変換) 掛率を入力: 0.01~999 (ここでは2を入力)

項目記号	品名	拾出数量	種量数量	単価	複合単価	金額
0002 1	電灯設備工事					
0001	規					
0002	合成樹脂電線管	123	135 m	97	1,380	13,095
0002	VE(22)露出					
0002	合成樹脂電線管付属品	1	1 式			3,928
0003	ビニル管					
0002	アウトレットボックス	35	35 ケ	273	2,180	9,555
0004	102X44 C付					
0002	電線(管路)	123	141 m	119	940	16,779
0005	IV 2.0 x4					
0002	ケーブル(ビト、天井内)	45	50 m	126	460	6,300
0006	YVF2.0-3C					
0002	ケーブル(ビト、天井内)	83	91 m	71	320	6,461
0007	YVF2.0-2C					
0002	ケーブル(ビト、天井内)	125	138 m	74	330	10,212
0008	YVF1.8-3C					
0002	ケーブル(ビト、天井内)	76	84 m	39	280	3,276
0009	YVF1.8-2C					
0002	種材消耗品	1	1 式			2,694
0010						
0002	労務費	23.40	23.40 人	15,500	15,500	362,700
0011	電工					
0002	小計					485,000
0012						

開始分類はマスターの1から最終分類の範囲から選択 終了分類は開始分類から最終分類の範囲から選択します。掛率は0.01~999の範囲で入力します。指定項目は内訳書の項目の範囲内で入力します。全項目指定にチェックを入れると1~終了項目まですべての項目を変換します。

OKかEnterキーを押すと確認ダイアログが表示されるので

ダイアログが表示されるので
OKをクリックするか
Enterキーを押すと

項目記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	単価	複合単価	金額
0002 1	電灯設備工事						
0002	合成樹脂電線管	123	135	m	97	1,380	13,095
0002	YE(22)露出						
0002	合成樹脂電線管付属品	1	1	式			3,928
0003	ビニル管						
0002	アウトレットボックス	35	35	ヶ	273	2,180	9,555
0004	102X44 C付						
0002	電線(管路)	123	141	m	119	940	16,779
0005	IV 2.0 x4						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	45	50	m	128	460	6,300
0006	YVF2.0-3C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	83	91	m	71	320	6,461
0007	YVF2.0-2C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	125	138	m	74	330	10,212
0008	YVF1.8-3C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	76	84	m	39	230	3,276
0009	YVF1.8-2C						
0002	雑材消耗品	1	1	式			2,694
0010							
0002	労務費	23.40	23.40	人	15,500	15,500	362,700
0011	電工						
0002	小計						435,000

単価が変換された

7~14の分類の単価が2倍されます。

2倍に変換された

2倍に変換された

項目記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	単価	複合単価	金額
0002 1	電灯設備工事						
0002	合成樹脂電線管	123	135	m	194	1,520	
0002	YE(22)露出						
0002	合成樹脂電線管付属品	1	1	式			
0003	ビニル管						
0002	アウトレットボックス	35	35	ヶ	273		
0004	102X44 C付						
0002	電線(管路)	123	141	m	238	1,080	
0005	IV 2.0 x4						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	45	50	m	252	600	
0006	YVF2.0-3C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	83	91	m	142	400	
0007	YVF2.0-2C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	125	138	m	148	410	
0008	YVF1.8-3C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	76	84	m	78	270	
0009	YVF1.8-2C						
0002	雑材消耗品	1	1	式			
0010							
0002	労務費	23.40	23.40	人	15,500	15,500	
0011	電工						
0002	小計						

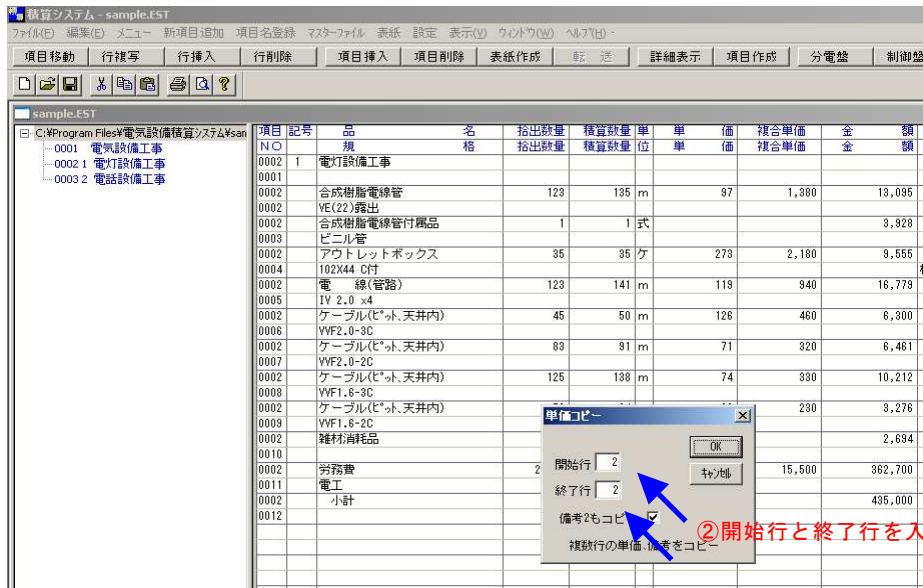
4-7、単価をコピーする

①メニューから単価変換をクリック

項目記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	単価	複合単価	金額
0002 1	電灯設備工事						
0002	合成樹脂電線管	123	135	m	97	1,380	
0002	YE(22)露出						
0002	合成樹脂電線管付属品	1	1	式			
0003	ビニル管						
0002	アウトレットボックス	35	35	ヶ	273	2,180	
0004	102X44 C付						
0002	電線(管路)	123	141	m	119	940	
0005	IV 2.0 x4						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	45	50	m	128	460	
0006	YVF2.0-3C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	83	91	m	71	320	
0007	YVF2.0-2C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	125	138	m	74	330	
0008	YVF1.8-3C						
0002	ケーブル(ビッド,天井内)	76	84	m	39	230	
0009	YVF1.8-2C						
0002	雑材消耗品	1	1	式			
0010							
0002	労務費	23.40	23.40	人	15,500	15,500	
0011	電工						
0002	小計						

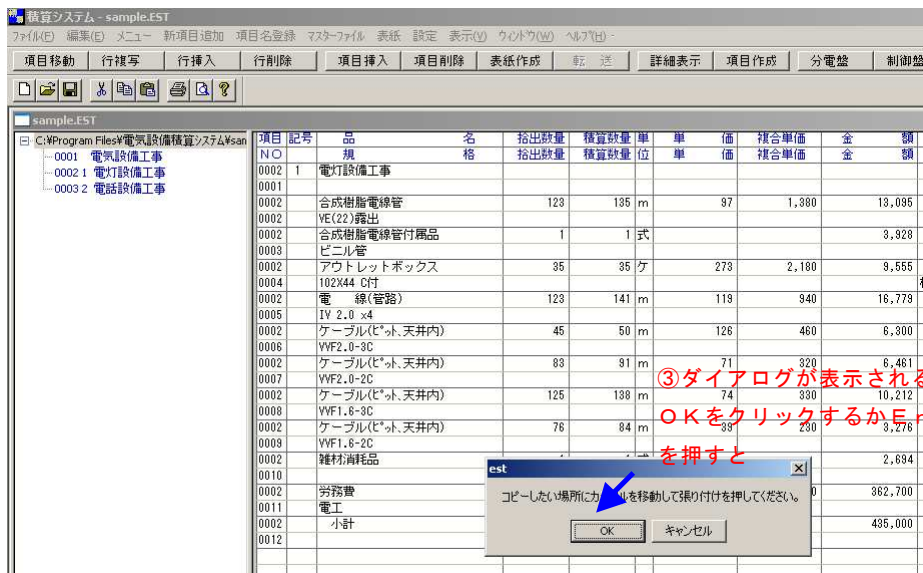
作成した内訳書の単価をコピーする必要がある場合各行で単価を変えなくても複数行を指定し一括で変更する事が出来ます。これはマスターファイルも同様に変更できますので自社に合った単価のマスターファイルを効率よく作成する事が出来ます。電線管で工事種類が複数ある場合(いんべい、露出等)に使用します。

単価コピーダイアログが表示された

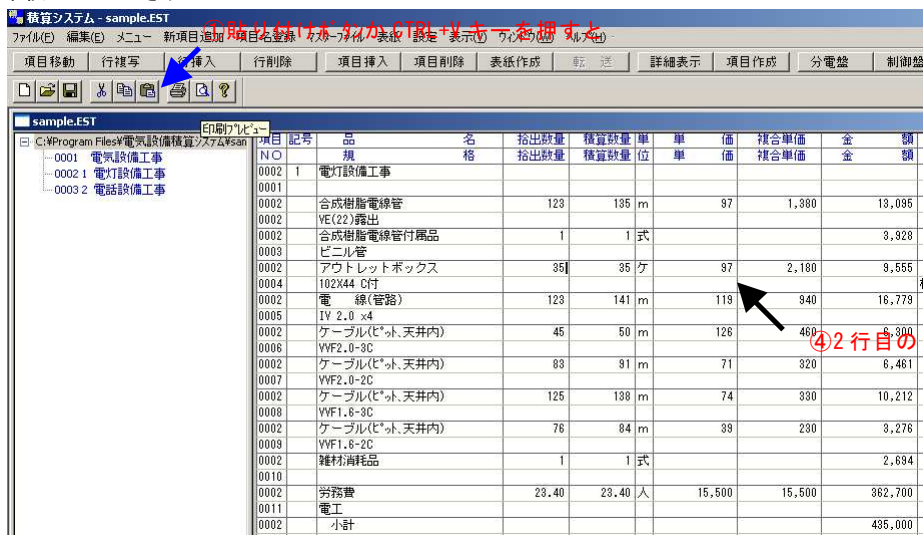


開始行は1から最終行の範囲より選択
 終了行も1から最終行の範囲より選択します。
 通常、備考2はコピーしないので必要な場合は備考2もコピーにチェックを入れます。内で入力します。

OKかEnterキーを押すと確認ダイアログが表示されるので



単価がコピーされた

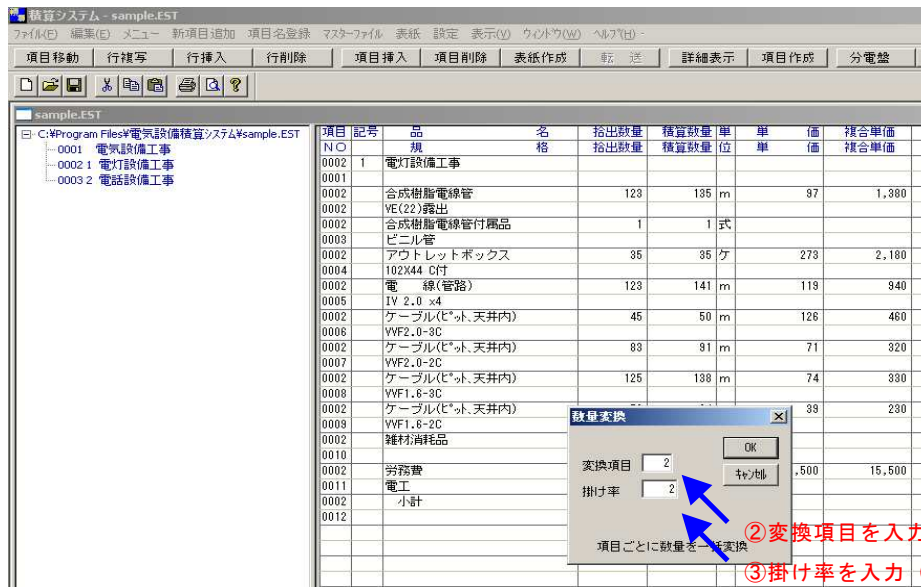


4-8、数量を変換する



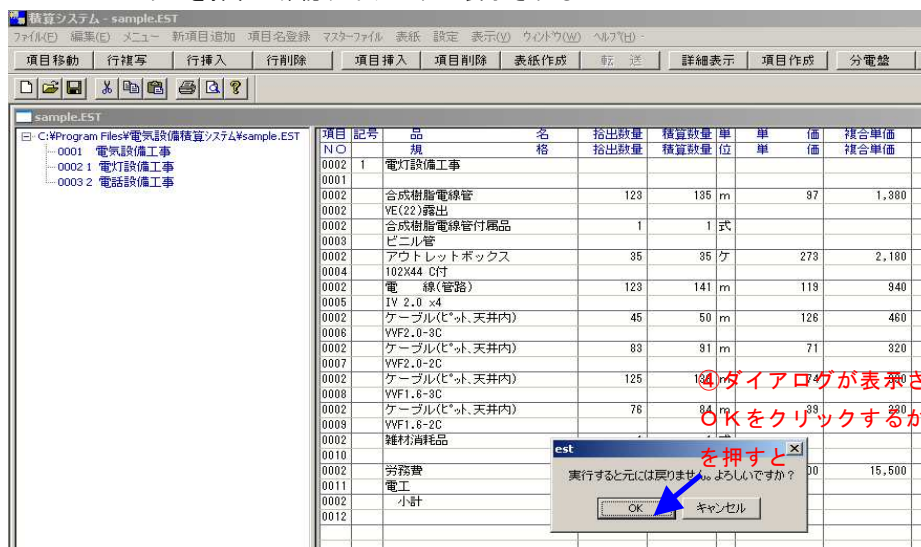
作成した内訳書の数量を変更する必要がある場合各行で単価を変えなくても複数行を指定し一括で変更する事が出来ます。これは資材を集計して原価計算する場合にマンション等で各戸項目で1戸あたりの内訳を作成して表紙(項目集計)で1戸当りの単価 x 戸数で金額を表示した場合、集計すると1戸当りの数量しか計算されないで個数分の数量に変換する必要があります。

数量変換ダイアログが表示された



開始項目は1から最終項目の範囲より選択します。掛け率は0.1から999の範囲で入力します。

OKかEnterキーを押すと確認ダイアログが表示されるので



数量が変換された

項目	記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	複合単価	金額	備考	歩掛	行高	補給	リサイクル	掛率	分類
	N/O	規格	拾出数量	積算数量	位	複合単価	金額		歩掛	歩掛2	材	リ/架		N/O
0002	1	電灯設備工事												0001
0002		合成樹脂電線管	248	271	m	97	1,380	26,287	0.065	0.3	1.1	0.12	0007	
0002		VE(22)露出											0003	
0002		合成樹脂電線管付属品	1	1	式		7,886						0009	
0003		ビニル管											0002	
0002		アウトレットボックス	70	70	ヶ				0.1	1.0	0.12		0033	
0004		102X44 C付											0002	
0002		電線(管路)	248	283	m	119	940	33,677	0.042	1.15	0.12		0014	
0005		IV 2.0 x4											0080	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	90	99	m	126	460	12,474	0.017	1.1	0.12		0014	
0006		YWF2.0-3C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	166	183	m	71	320	12,933	0.013	1.1	0.12		0014	
0007		YWF2.0-2C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	250	275	m	74	330	20,550	0.013	1.1	0.12		0014	
0008		YWF1.6-3C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	152	167	m	39	230	6,513	0.01	1.1	0.12		0014	
0009		YWF1.6-2C											0003	
0002		雑材消耗品	1	1	式		5,465						0073	
0010													0002	
0002		労務費	46.79	46.79	人	15,500	15,500	725,245					0074	
0011		電工											0002	
0002		小計						870,000					0079	

4-9 その他掛け率を削除する

項目	記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	複合単価	金額	備考	歩掛	行高	補給	リサイクル	掛率	分類
	N/O	規格	拾出数量	積算数量	位	複合単価	金額		歩掛	歩掛2	材	リ/架		N/O
0002	1	電灯設備工事												0001
0002		合成樹脂電線管	123	135	m	97	13,095		0.065	0.3	1.1	0.12	0007	
0002		VE(22)露出											0014	
0002		合成樹脂電線管付属品	1	1	式		3,928						0009	
0003		ビニル管											0002	
0002		アウトレットボックス	35	35	ヶ	273	9,555		0.1	1.0	0.12		0033	
0004		102X44 C付											0002	
0002		電線(管路)	123	141	m	119	940	16,779	0.042	1.15	0.12		0014	
0005		IV 2.0 x4											0080	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	45	50	m	126	460	6,300	0.017	1.1	0.12		0014	
0006		YWF2.0-3C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	83	91	m	71	320	6,461	0.013	1.1	0.12		0014	
0007		YWF2.0-2C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	125	138	m	74	330	10,212	0.013	1.1	0.12		0014	
0008		YWF1.6-3C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	76	84	m	39	230	3,276	0.01	1.1	0.12		0014	
0009		YWF1.6-2C											0003	
0002		雑材消耗品	1	1	式		2,694						0073	
0010													0002	
0002		労務費	23.40	23.40	人	15,500	15,500	362,700					0074	
0011		電工											0002	
0002		小計						435,000					0079	

労務費の歩掛にはその他掛け率をかけて計算されていますので 労務費の歩掛合計は歩掛 x (1+ その他掛け率) x 数量を各行毎に集計した値が数量へ〇〇人で表示されますが、その他掛け率が必要ない場合に1活で削除します。

その他掛け率

OKかEnterキーを押すと確認ダイアログが表示されるので

項目	記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	複合単価	金額	備考	歩掛	行高	補給	リサイクル	掛率	分類
	N/O	規格	拾出数量	積算数量	位	複合単価	金額		歩掛	歩掛2	材	リ/架		N/O
0002	1	電灯設備工事												0001
0002		合成樹脂電線管	123	135	m	97	13,095		0.065	0.3	1.1	0.12	0007	
0002		VE(22)露出											0014	
0002		合成樹脂電線管付属品	1	1	式		3,928						0009	
0003		ビニル管											0002	
0002		アウトレットボックス	35	35	ヶ	273	9,555		0.1	1.0	0.12		0033	
0004		102X44 C付											0002	
0002		電線(管路)	123	141	m	119	940	16,779	0.042	1.15	0.12		0014	
0005		IV 2.0 x4											0080	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	45	50	m	126	460	6,300	0.017	1.1	0.12		0014	
0006		YWF2.0-3C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	83	91	m	71	320	6,461	0.013	1.1	0.12		0014	
0007		YWF2.0-2C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	125	138	m	74	330	10,212	0.013	1.1	0.12		0014	
0008		YWF1.6-3C											0003	
0002		ケーブル(ビニル,天井内)	76	84	m	39	230	3,276	0.01	1.1	0.12		0014	
0009		YWF1.6-2C											0003	
0002		雑材消耗品	1	1	式		2,694						0073	
0010													0002	
0002		労務費	23.40	23.40	人	15,500	15,500	362,700					0074	
0011		電工											0002	
0002		小計						435,000					0079	

その他掛け率が消去された

その他掛け率がすべて削除された

項目記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	複合単価	金額	備	考	歩掛1	付属	補給	リ/外	掛率	分類
0001	電灯設備工事													NO
0002	電灯設備工事													NO
0003	電話設備工事													NO
0001	電灯設備工事													NO
0002	合成樹脂電線管	123	135	m	97	1,240	13,095		0.065	0.3		1.0	0001	
0002	VE(22)露出												0002	
0002	合成樹脂電線管付属品	1	1	式									0009	
0003	ビニル管												0002	
0002	アウトレットボックス	35	35	ヶ	273	1,970	9,555						0033	
0004	102X44 4付							松下 DS3744+DS4611					0002	
0002	電線(管路)	123	141	m	119	850	16,778		0.042			1.05	0014	
0005	IV 2.0 x4											0.05	0080	
0002	ケーブル(ビスト,天井内)	45	50	m	128	430	6,300		0.017			1.1	0014	
0006	WF2.0-3C											0.03	0006	
0002	ケーブル(ビスト,天井内)	83	91	m	71	300	6,461		0.013			1.1	0014	
0007	WF2.0-2C											0.03	0003	
0002	ケーブル(ビスト,天井内)	125	138	m	74	300	10,212		0.013			1.1	0014	
0008	WF1.6-3C											0.03	0005	
0002	ケーブル(ビスト,天井内)	76	84	m	39	210	3,276		0.01			1.1	0014	
0008	WF1.6-2C											0.03	0002	
0002	雑材消耗品	1	1	式			3,599					1.0	0073	
0010													0002	
0002	労務費	20.89	20.89	人	15,500	15,500	323,795					1.0	0074	
0011	電工												0002	
0002	小計												0079	
0019							997,000						0009	

4-10. 盤の労務費を計算する

①分電盤の内訳作成ウィンドに転送

②この時点では盤に歩掛けが入っていないので

③分電盤のボタンをクリックすると

製作品の分電盤等労務費の歩掛けの入ってないときに呼び出しして歩掛けを計算します。

盤労務費計算ダイアログが表示された

①開閉器 Mccb 4P100A を選んでクリックすると

②内容が表示されたらこので数量を入力する

③追加ボタンを押せば転送されます。

④合計に追加されていく

NO	名称	規格	数量	単価	金額
0001	開閉器	MCCB 1P30A	0.211		0.211
0002	開閉器	MCCB 1P60A	0.302		0.302
0003	開閉器	MCCB 2P30A	0.284		0.284
0004	開閉器	MCCB 2P60A	0.380		0.380
0005	開閉器	MCCB 2P100A	0.526		0.526
0006	開閉器	MCCB 3P100A	0.741		0.741
0007	開閉器	MCCB 2P400A(300)	0.894		0.894
0008	開閉器	MCCB 3P30A	0.387		0.387
0009	開閉器	MCCB 3P60A	0.558		0.558
0010	開閉器	MCCB 3P100A	0.708		0.708
0011	開閉器	MCCB 3P225A(200)	1.040		1.040
0012	開閉器	MCCB 3P400A(300)	1.260		1.260
0013	開閉器	MCCB 4P30A	0.503		0.503
0014	開閉器	MCCB 4P60A	0.677		0.677
0015	開閉器	MCCB 4P100A	0.926		0.926
0016	開閉器	MCCB 4P225A(200)	1.350		1.350
0017	開閉器	MCCB 4P400A(300)	1.640		1.640

歩掛けの入力が終了すれば内訳に送るボタンをクリックすれば内訳作成ウィンドに

労務費の歩掛けが転送された

項目記号	品名	単価	単価	単価	単価	単価	単価	単価	単価	歩掛	付属	補給	ワケ	比率	分類
0001	電気設備工事														NO
0002	1 電灯設備工事														0002
0003	合成樹脂電線管付属品	1	1式						3,928						0002
0004	ピニル管														0002
0002	アウトレットボックス	35	35ヶ	278	1,970				9,555		0.1	1.0			0033
0004	102X44 C付											0.02			0002
0002	電線(管路)	123	141m	119	850				16,779		0.042	1.15			0014
0005	IV 2.0 x4											0.05			0080
0002	ケーブル(ベ-ト、天井内)	45	50m	126	430				6,300		0.017	1.1			0014
0006	VVF2.0-3C											0.03			0006
0002	ケーブル(ベ-ト、天井内)	83	91m	71	300				6,461		0.013	1.1			0014
0007	VVF2.0-2C											0.03			0003
0002	ケーブル(ベ-ト、天井内)	125	138m	74	300				10,212		0.013	1.1			0014
0008	VVF1.6-3C											0.03			0005
0002	ケーブル(ベ-ト、天井内)	76	84m						3,276		0.01	1.1			0014
0009	VVF1.6-2C											0.03			0002
0002	埋込スイッチ 大角型(ネーム)	1	1ヶ	650	1,890				650		0.054	1.0	0.12		0038
0010	IP15Ax1 新金P											0.02			0002
0002	埋込スイッチ 大角型(ネーム)	2	2ヶ	910	920				1,820		0.081	1.0	0.12		0038
0011	IP15Ax2 新金P											0.02			0004
0002	分電盤	1	1面	125,000	140,700				125,000		0.708	1.0	0.1		0048
0012	露出型 銅板製扉付														0010
0002	雑材消耗品	1	1式						6,109						0073
0013	労務費														0002
0014	電工														0002
0015	小計														0002

ここまで内訳作成ウィンドウの機能について説明しましたが、マスターファイルおよび後に説明する集計ウィンドウでもすべてではありませんが同様の機能がありますので、マスターファイルの単価更新、追加登録も効率よく作業ができます。

4-12、大、中、小項目と表紙計、中計、小計、項目内計について

①マスターファイルの分類0001の電灯設備工事が

各項目の見出しは小項目分類を選択します。

この分類が一致していないと次に示す項目集計に金額が表示されません。

②内訳作成のウィンドウに転送されている

項目2の明細を表示

③この記号と ④この小項目の分類を項目1と一致させる

工事項目と記号と小計は必須入力です。

ない場合は項目1の見出しに金額が表示されません。

各項目の合計は小計分類を使用

項目 1 の項目集計 (見出し)

項目記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	複合単価	金額	備考	歩掛1	付高	補給	歩掛率	分類
0001	電気設備工事											NO
0001	電気設備工事											NO
0001 1	電灯設備工事	1	1	式	542,790	542,790						NO
0001 2	電話設備工事	1	1	式	380,000	380,000						NO
0001	合計					822,790						NO

中項目分類
小項目分類
総合計分類
(表紙に合計を表示)

中項目の使い方

① 新規項目追加をクリックして

② ダイアログが表示されたらOKをクリック

項目 1 の上に項目を挿入して中項目の電気設備工事に金額表示出来るようになります。

項目 1 が挿入されたので

項目記号	品名	拾出数量	積算数量	単価	複合単価	金額	備考	歩掛1	付高	補給	歩掛率	分類
0001	電気設備工事											NO
0001 1	電灯設備工事	1	1	式	542,000	542,000						NO
0001 2	電話設備工事	1	1	式	380,000	380,000						NO
0001	合計											NO

ここに項目 2 から電気設備工事をコピースてきます。

項目 2 を表示して行コピー

① 記号に数値が、アルファベット入力

② ダイアログが表示されたらOKをクリック

1 行目の電気設備工事と 4 行目の合計金額を項目 1 に表示するには記号を一致、または品名、規格が一致しなくては表示できません。

項目1へ項目2の1行目（中項目）をコピーする

単価が表示されたら単位に式を入力してEnterキーを押せば金額が表示されます。

この方法で、A 屋外工事、B、屋内工事またはA A棟電気設備工事、B B棟電気設備工事の中項目の下にそれぞれ小項目を作成することが出来ます。

同様の方法でこの上に大項目集計を作成することも出来ます。

中項目、大項目、の使い方については付属の内訳サンプルを参照してください。

1項目内を小計で区切る

1項目内で材料及労務費を小計で区切りたい場合は項目内計分類を使用

項目内計（小計）が表示された

4-13. 経費を計算する

経費には経費1、2、と手入力があります。

経費1、2の分類に諸経費等の行を作成して掛け率を設定すれば自動で計算します。(通常は経費1のみ使用)

手入力は自動計算しないので任意の金額を書き込むことが出来ます。

注：労務費を計上して積算モードでは分類なしの行に入力してもかまいませんが、複合単価で積算モードでは分類なしでは表示できないので必ず経費(手入力)分類を使用する必要があります。

諸経費を入力(自動計算)

諸経費を入力(手計算)

消費税を入力

①ここ小計を挿入

②消費税分類を選択して

③消費税をダブルクリックして内訳作成ウィンドに転送

④消費税が表示される

これまでの内訳に消費税を追加して消費税入りの内訳書を作成します。

第4章 各種設定について

ここでは、計算、印刷に関する設定について説明します。

積算システム - 内訳書1.EST

演算分類設定

桁の丸め
複合単価丸め設定
複合単価表示
複合単価表示
表紙フォーム設定
ヘッダー設定
表紙フォーム選択
ヘッダー選択
設定ファイル選択
労務単価ファイル選択
相手先ファイル選択
盤労務ファイル選択
制御労務ファイル選択
配線労務ファイル選択

分類に計算式を割当てます

各項目の小計を雑材を調整して1から3桁の範囲で丸めます。

複合単価の丸めを切り捨て、四捨五入、補償用に設定します。

複合単価に表示する労務費の単価を設定します。

複合単価で積算か、労奴婢計上して積算を選択します。

見積書表紙に表示するファイルを選択します。

内訳書のヘッダー、フッターに表示するファイルを選択

見積書表紙に表示するファイルを選択します。

内訳書のヘッダー、フッターに表示するファイルを選択

演算項目等を設定するファイルを選択します。

複合単価に使用する労務単価登録ファイルを選択します。

見積書の提出先ファイルを選択します。

盤の労務費を計算するファイルを選択します。

制御盤の労務費を計算するファイルを選択します。

配線器具の労務費を計算するファイルを選択します。

5-1、演算分類を設定する

積算システム - [sample.EST]

演算分類の設定

大項目	中項目	小項目	経費1	経費2	経費3(手入力)	表紙計	中計	小計	項目内計	消費税
0005	付属品計算1	0008								
0002	付属品雑計算1	0006								
0001	付属品計算2	0009								
0076	付属品雑計算2	0007								
9999	付属品計算3	9999								
0078	付属品雑計算3	9999								
9999	付属品計算4	9999								
0081	付属品雑計算4	9999								
0080	雑材	0073								
0079	労務費1	0074								
0082	労務費2	0075								
9999	労務費3	9999								
0083	労務費4	9999								

設定→演算分類設定を選ぶと演算分類の設定ダイアログが表示されます。

この数字で設定された分類をマスターファイルから選んで内訳作成画面に転送することにより演算が出来ます。

例えば各項目の合計は小計 0079 ですからこの 0079 の分類に登録された小計、合計を転送すればその項目の合計が自動計算されます。

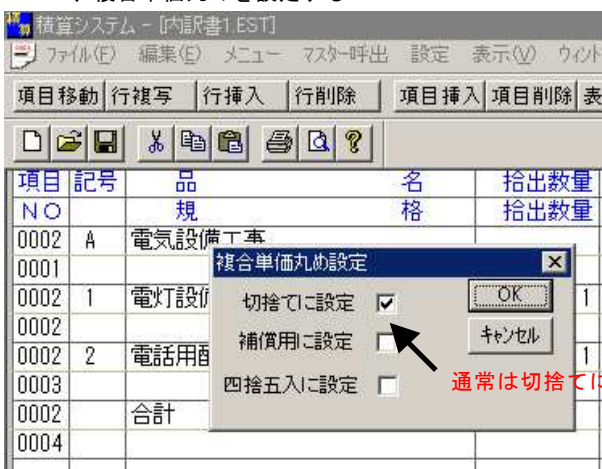
5-2、合計を丸める桁を設定する



桁の丸めダイアログが表示されたら▼をクリックすると下に0～3までの数値が表示されますので数値を選択します。
この設定は労務費を計上して積算モードで雑材消耗品を調整して合計金額を丸めます。

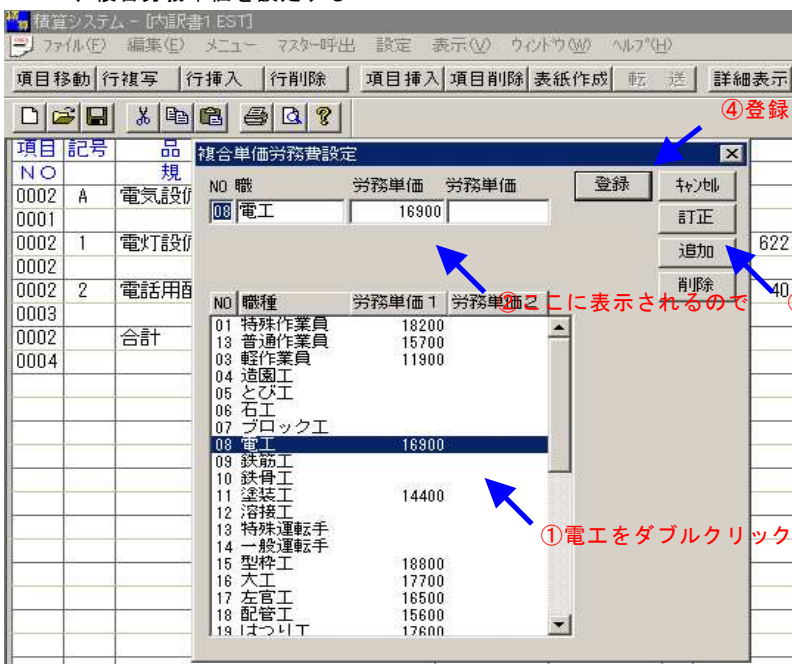
- 0：丸めなし
- 1：10の位で丸め
- 2：100の位で丸め
- 3：1000の位で丸め

5-3、複合単価丸めを設定する



複合単価の端数の丸めの設定を行います。
切捨てに設定：端数を切り捨てて丸めます。
補償用に設定：補償物件用に合わせて丸めます。
4捨5入に設定：端数を4捨5入して丸めます。

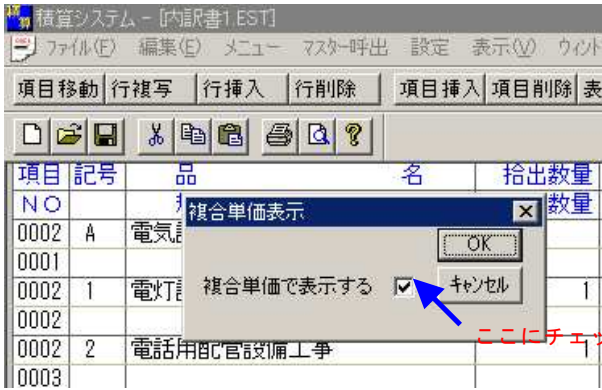
5-4、複合労務単価を設定する



複合単価用の労務単価を設定します。

注：この単価は複合単価で表示モードのみで使用される単価で、労務費を計上して積算モードの労務費はマスターファイルの労務費分類の単価で計算されます。
ただ詳細ダイアログの“常時複合単価で”
はこの単価が使用されるので双方の単価を合わす必要があります。
例：支線材等を常時複合単価表示に設定しています。

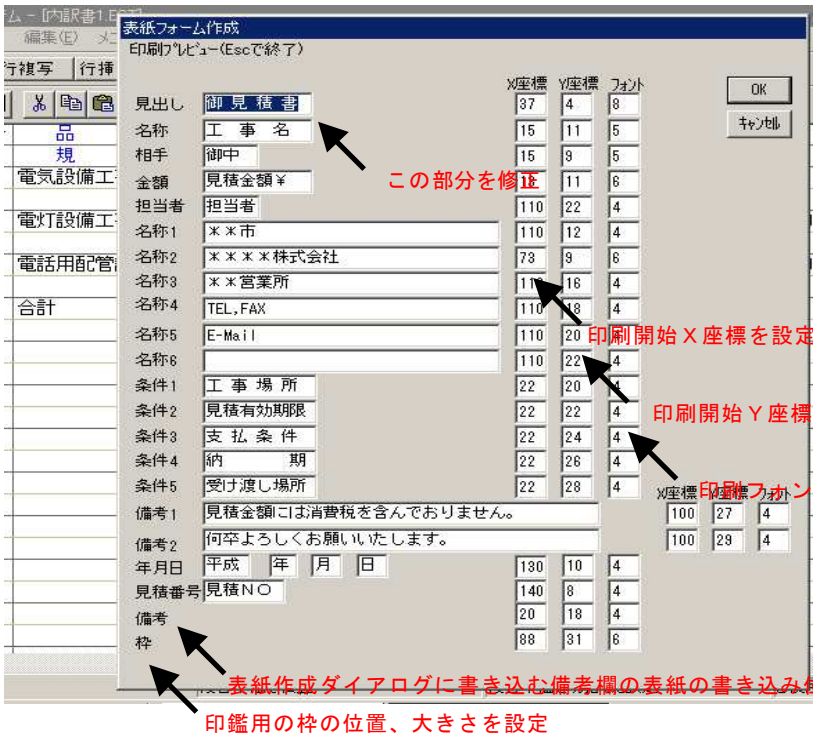
5-5、複合単価を表示する



複合単価で表示するにチェックがあるときは複合単価表示積算モードになります。

チェックのないときは労務費を計上して積算モードです。

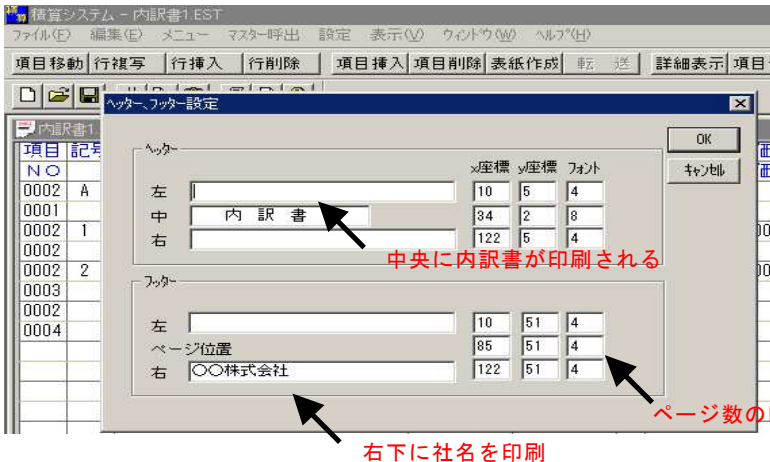
5-6、表紙フォームを設定する



表紙へ社名等を印刷するためのフォームを設定します。

このファイルは○○.frm で保存されていますので、エクスプローラ等で名前を変えてコピーして修正すればいろいろな印刷フォームを作成できますので設定の表紙フォーム選択ダイアログでファイルを選択すれば、用途に応じた表紙を印刷できます。

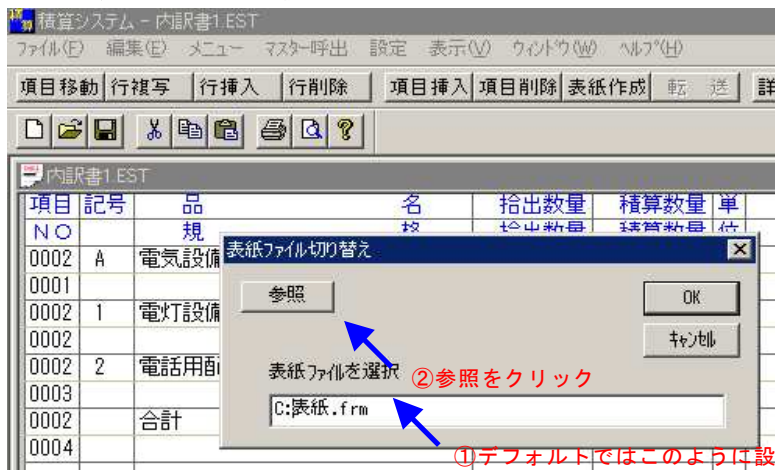
5-7、ヘッダー設定



内訳明細書に表示する見出し、社名印刷位置を設定します。

このファイルは○○.hdr で保存されていますので、表紙と同じように、用途に応じた表紙を印刷できます。

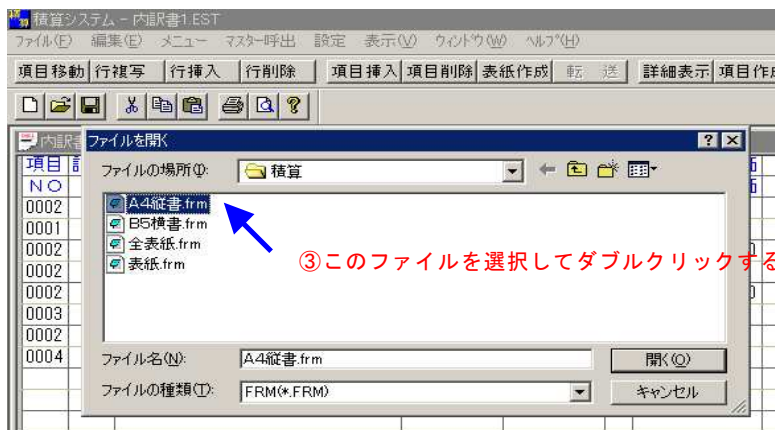
5-8、表紙ファイルを選択



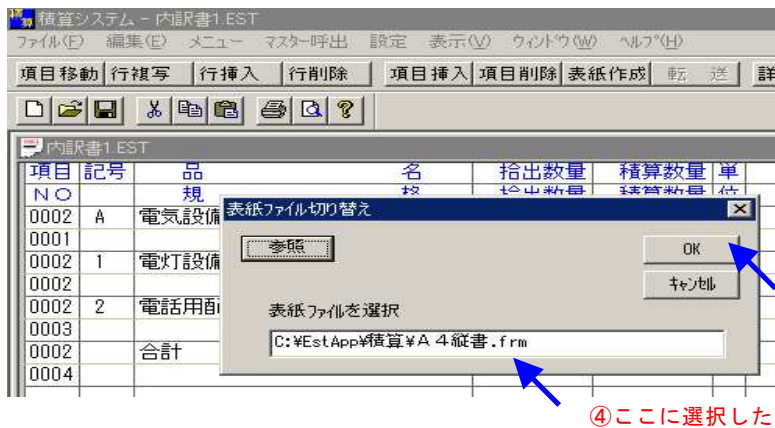
表紙を印刷するためのファイルを選択します。

複数のフォームのファイルが登録されている場合このダイアログを開いてここに読み込む事によりフォームの切り替えを行う事ができます。

また、〇〇.frmが存在しません。新たにファイルを作成しますか？と表示された時にもキャンセルしてここで再設定する事によりトラブルが解消できます。



フォルダーの中から使用する表紙ファイルを選択



5-9、設定ファイルを選択



演算分類等を設定するファイル〇〇.sttを選択します。

操作は5-8、表紙ファイルを選択と同様の方法で行います。

5-10、相手先設定ファイルを選択



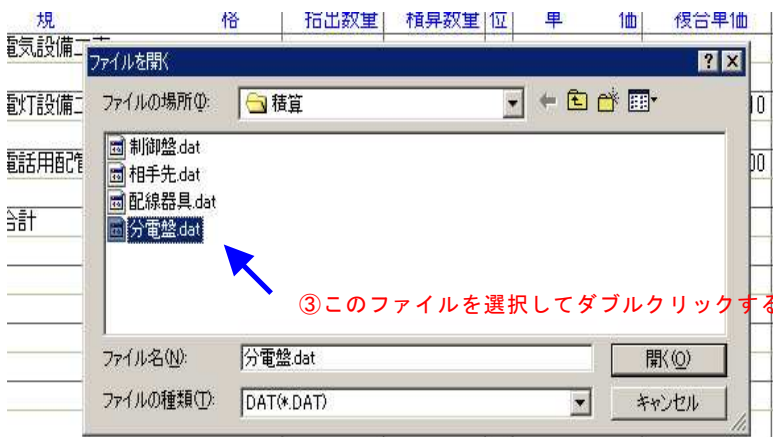
相手（取引）先を設定するファイル
○○.dat を選択します。
操作は5-8、表紙ファイルを選択
と同様の方法で行います。

5-11、分電盤、制御盤、配線器具歩掛計算ファイルを選択



分電盤等、計算ファイル
○○.dat を選択します。
操作は5-8、表紙ファイルを選択
と同様の方法で行います。

①デフォルトではこのように設定されているので



③このファイルを選択してダブルクリックするか、開くをクリックすると

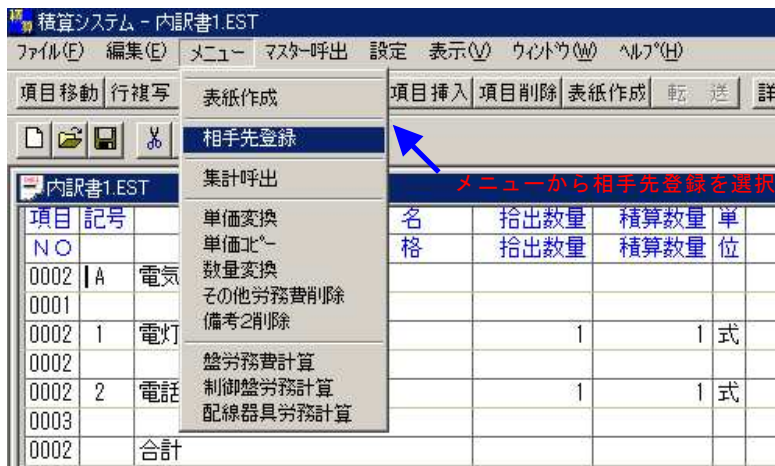


⑤OKで選択完了

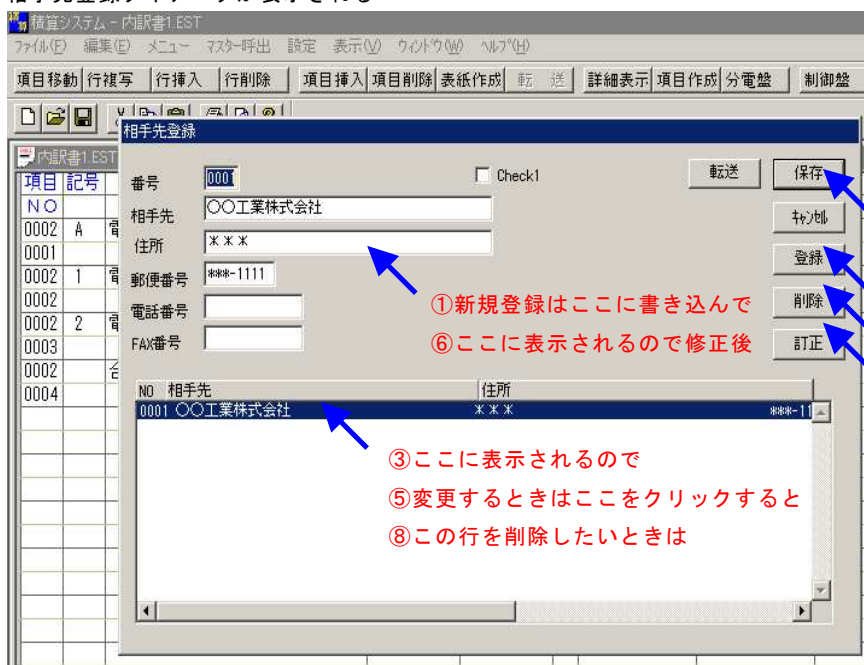
④ここに選択したファイルが表示されるので

第6章、 相手先登録、表紙作成

6-1、 相手(取引先)を登録



相手先登録ダイアログが表示される



ここに相手(取引先)を登録して
いきます。

④保存をクリックすれば書き込み完了

②登録ボタンをクリック

⑨削除ボタンをクリック

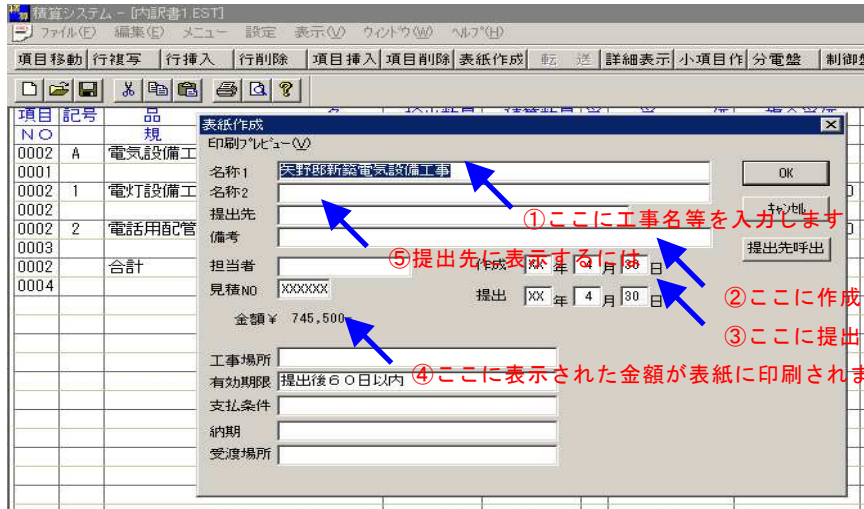
⑦訂正ボタンをクリック

※変更を保存するときは必ず保存ボタン
をクリックしてください。

6-2、 内訳書に表紙を作成する



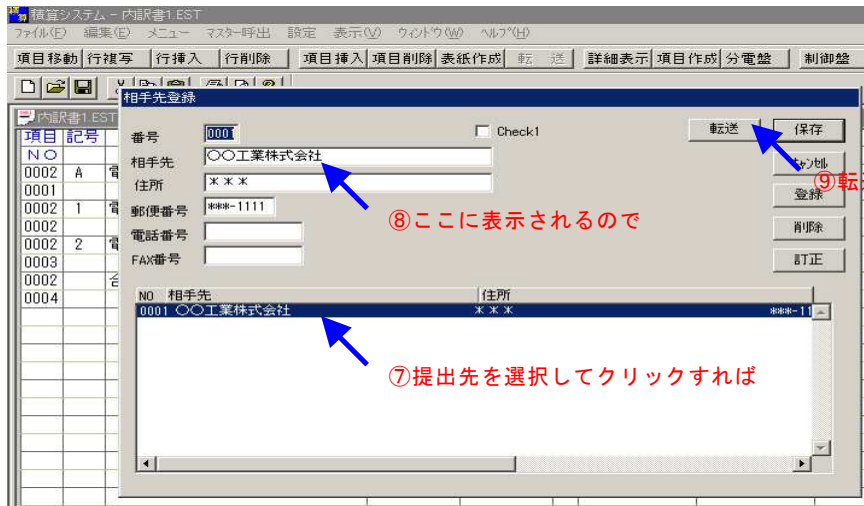
表紙作成ダイアログが表示された



このダイアログで表紙を作成します。

- ①ここに工事名等を入力します
- ②ここに作成日を入力（印刷されない）
- ③ここに提出日を入力（印刷される）
- ④ここに表示された金額が表紙に印刷されます（表紙計分類で計算されたもの）

⑥相手先登録ダイアログを表示する

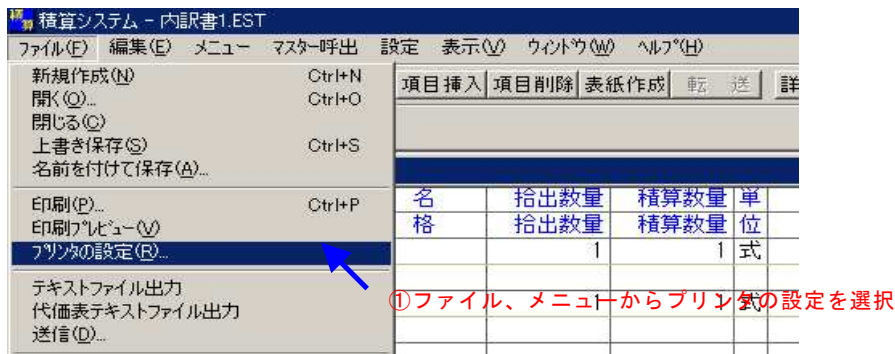


- ⑦提出先を選択してクリックすれば
- ⑧ここに表示されるので
- ⑨転送ボタンをクリック

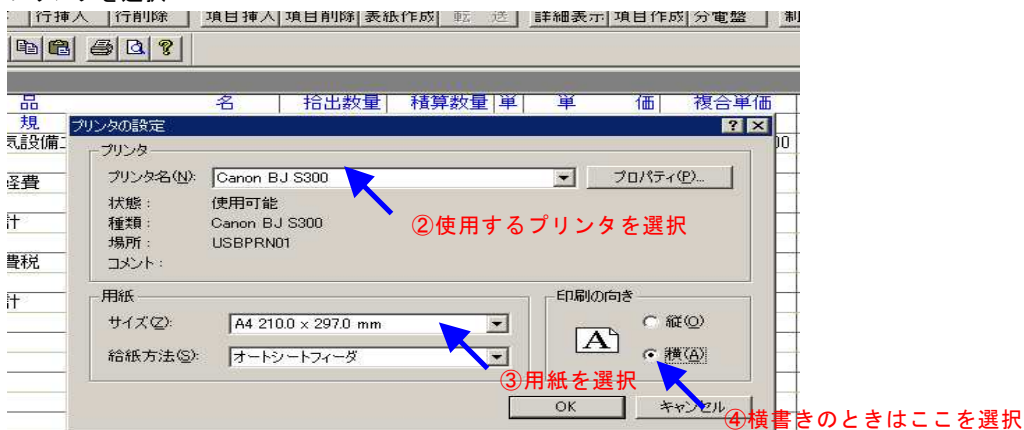


第7章 印刷

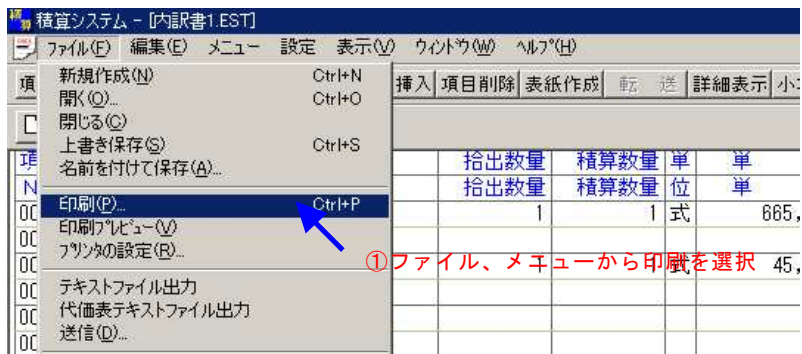
7-1、プリンタの設定



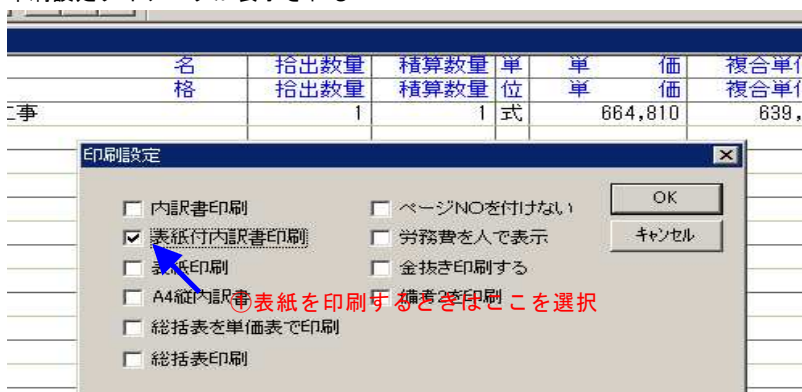
プリンタを選択



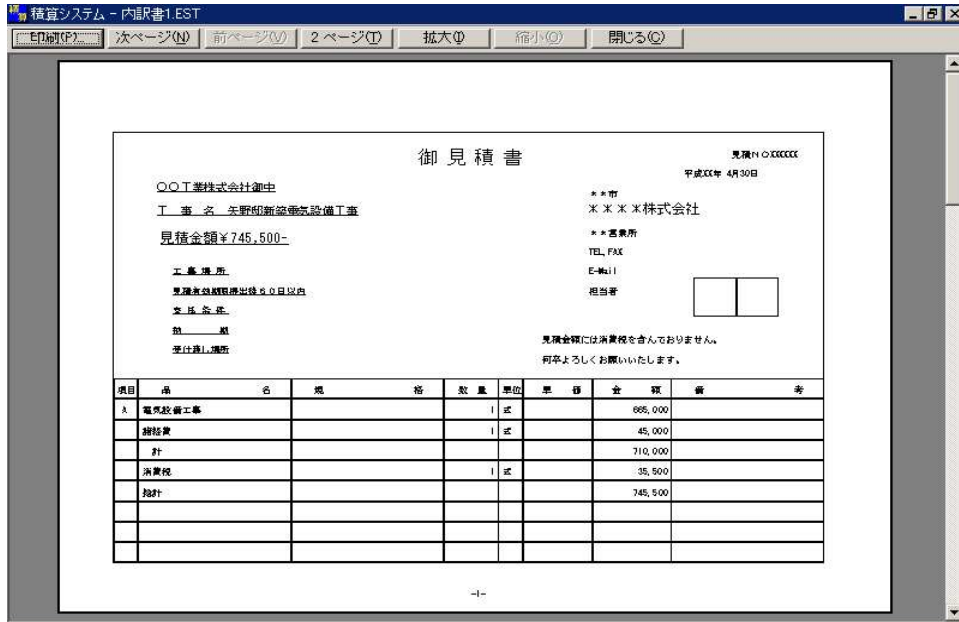
7-2、内訳書印刷



印刷設定ダイアログが表示される

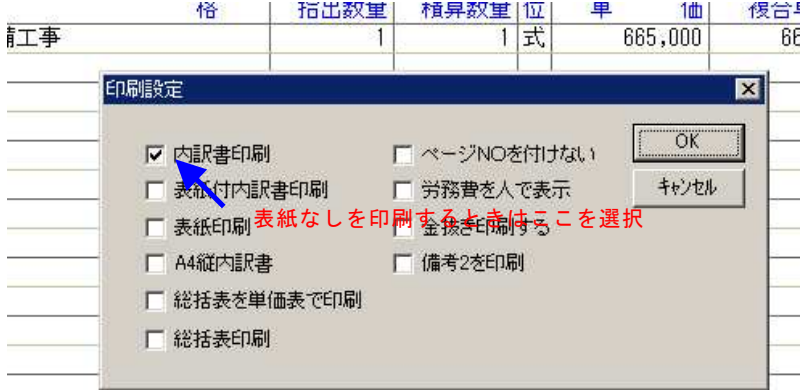


プレビューで表示



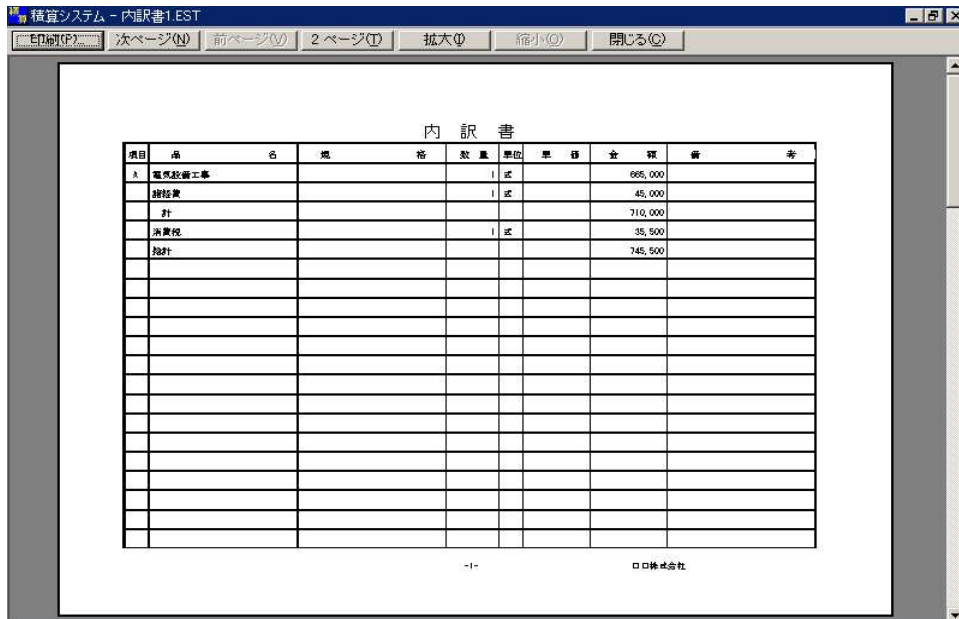
プレビューでみるとこのように横書きの表紙が表示される。

印刷設定ダイアログを表示して



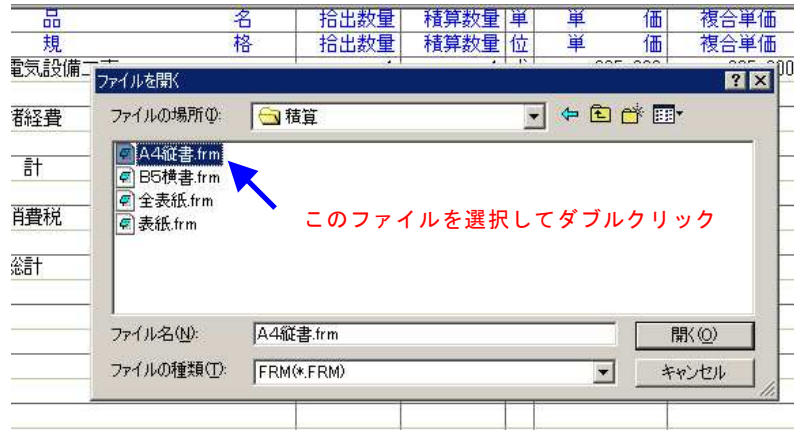
表紙なしの印刷を選択

プレビューで表示



プレビューでみるとこのように横書きの表紙なし内訳書が表示される。

縦書きの内訳を印刷する



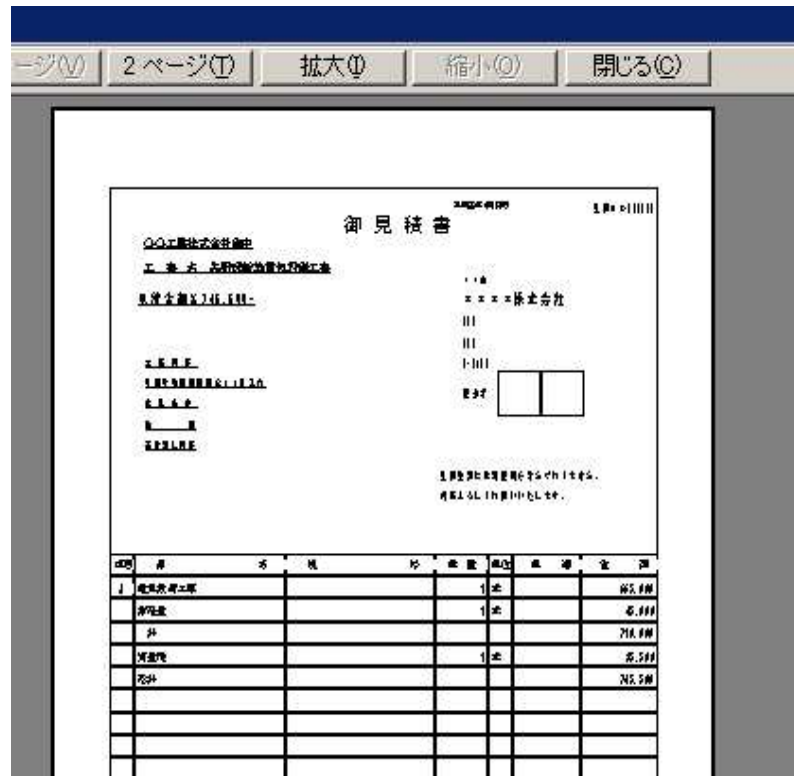
縦書きで印刷をする時は
5-8、表紙ファイルを選択の
方法でA4縦書き.frmをクリック
します。

印刷設定ダイアログを表示して



表紙付内訳書印刷とA4縦内訳書
を同時に選んでチェックをいれます。

プレビューで表示



プレビューでみるとこの
ように縦書きの表紙付
内訳書が表示される。

印刷設定ダイアログを表示して

品名	拾出数量	積算数量	単位	単価	複合単価
規	拾出数量	積算数量	位	単	複合単
電気設備工事	1	1	式	665,000	665,000

印刷設定

内訳書印刷 ページNOを付けない
 表紙付内訳書印刷 労務費を人で表示
 表紙印刷 金抜き印刷する
 A4縦内訳書 備考2を印刷
 総括表を単価表で印刷
 総括表印刷

OK キャンセル

内訳書印刷とA4縦内訳書を同時に
選んでチェックをいれます。

プレビューで表示

内訳書1.EST

次ページ(N) 前ページ(W) 2ページ(F) 拡大(D) 縮小(Q) 閉じる(C)

内 訳 書

項目	品名	規	拾出数量	積算数量	単位	単価	金額
A	電気設備工事				1式		665,000
	総括費				1式		45,000
	計						710,000
	消費税				1式		35,500
	総計						745,500

プレビューでみるとこの
ように縦書きの表紙なし
内訳書が表示される。

7-3、総括表印刷

品名	拾出数量	積算数量	単位	単価	複合単価
規	拾出数量	積算数量	位	単	複合単
電気工事	1	1	式	665,000	665,000

印刷設定

内訳書印刷 ページNOを付けない
 表紙付内訳書印刷 労務費を人で表示
 表紙印刷 金抜き印刷する
 A4縦内訳書 備考2を印刷
 総括表を単価表で印刷
 総括表印刷

OK キャンセル

ファイル、メニューから総括表印刷を選択

総括表をプレビューで表示

項目	記号	品名	抽出数量	積算数量	単位	単価	複合単価	金額	備考	歩掛-1	付属	歩掛-2	材料	歩掛-3
0003	1	電気設備工事												
0003		各既機箱可とう電線管	12	12	m	84		1,092		0.041	0.25	1.1		
0002		PF(22) インベイ							備考				0.02	
0003		各既機箱可とう電線管	90	90	m	81		4,020		0.031	0.25	1.1		
0003		PF(18) インベイ											0.02	
0003		各既機箱電線管付属品	1	1	式			1,167					1.0	
0004		ビニル管												
0003		アウトレットボックス	10	10	ヶ	130		1,300		0.1				
0005		102X44 0付											0.02	
0003		電線(PE管巻)	1,000	1,150	m	28		32,200		0.0198			1.15	
0006		IV 2.0 x2											0.05	
0003		埋込スイッチ 大角型			ヶ	700				0.108				
0007		1P15Ax4 新金P											0.02	
0003		分電盤	1	1	面	125,000		125,000		3.000			1.0	
0008		露出型 銅板取厚付							見直しによる				0.02	
0003		銅材消耗品	1	1	式			5,145					1.0	
0009														
0003		小計						109,900						
0010														
0003		労務費	26.19	26.19	人	17,400		456,010					1.0	
0011		電工												
0003		小計						625,000					1.0	
0012														

このように品名、単価、数量、金額、歩掛等構成要素を印刷します。公共事業等の設計根拠提出用に使用します。

7-4、総括表を単価表で印刷

規	格	抽出数量	積算数量	位	単	価	複合単価
電気設備工事		1	1	式	665,000		665,000

印刷設定

- 内訳書印刷
- 表紙付内訳書印刷
- 表紙印刷
- A4縦内訳書
- 総括表を単価表で印刷
- 総括表印刷
- ページNOを付けない
- 労務費を人で表示
- 金抜き印刷する
- 備考2を印刷

ファイル、メニューから総括表を単価表で印刷を選択

単価表印刷はどのようなときにするか

積算システム - 内訳書1.EST

項目移動 | 行複写 | 行挿入 | 行削除 | 項目挿入 | 項目削除 | 表紙作成 | 転送 | 詳細表示

分類	NO	名称	規格	単位	複合単価
0021	0004	埋込スイッチ 大角型	1P15Ax4 新金P	ヶ	280

常時複合単価で表示す 材料を合計して表示

名称	規格	数量	単位	単価1	金額
埋込スイッチ 大角型	1P15A	4.0	ヶ	100	
取り付け枠		2.0	ヶ	28	
新金属プレート	4-8P	1.0	枚	310	

常時複合単価で表示すにチェック

材料が何種類もあり、常時複合単価で表示すにチェックがあるデータを印刷します。用途としては設計事務所で複合単価で内訳書を作成した時の根拠提出用として使用します。※すべてのデータにチェックを入れて全データを印刷するか、総括表の補助として複数材料を使用するものを単価表で印刷します。労務費を計上して積算モードでは材料を合計して表示にチェックのあるものも印刷します。(予定)

単価表をプレビューで表示

項目名	規格	数量	単位	単価	金額	備考
埋込スイッチ 大角型	IP15&sd 新金網					
埋込スイッチ 大角型	IP15&sd	4.0	ヶ	100	400	
取付け枠		2.0	ヶ	28	56	
新金網プレート	4-6P	1.0	枚	310	310	
漆 付 料	(附)±2.0%		式		15	
漆 料 計					781	
労 務 費	職工	0.10%	人	16,900	1,828	
計					2,600	
埋込処理費					2,600	

内訳 1 行毎に複合単価の単価表にして印刷します。

第 8 章 テキストファイルで出力

8-1、内訳書をテキストファイル出力

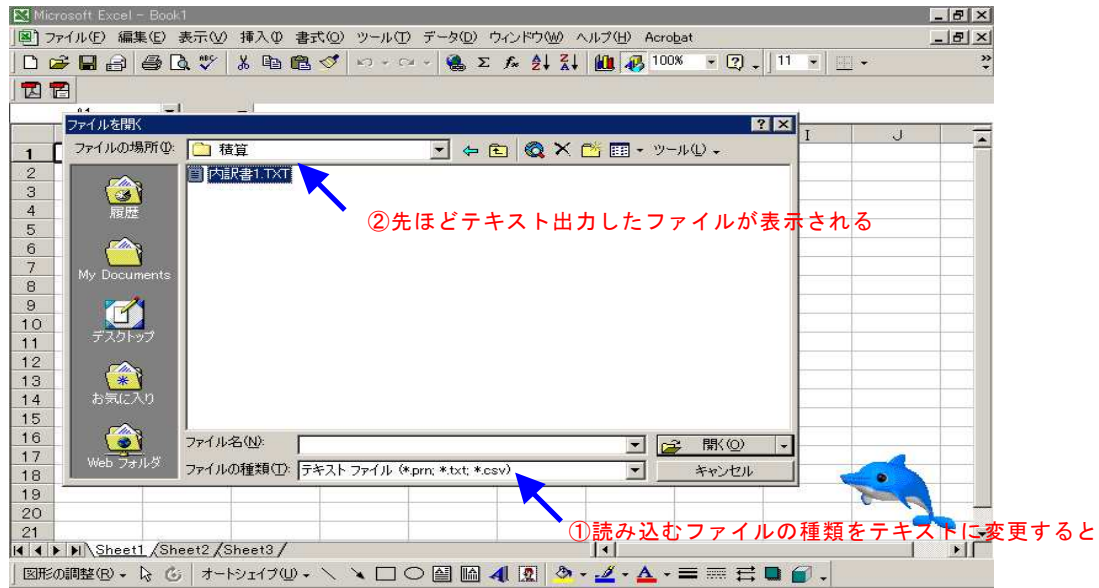
内訳書をテキストファイル出力してエクセル等の表計算ソフトで読み込めるようにします。

ファイルからテキストファイル出力をクリック
 ファイルから代価(単価)表テキストファイル出力をする場合はここをクリック

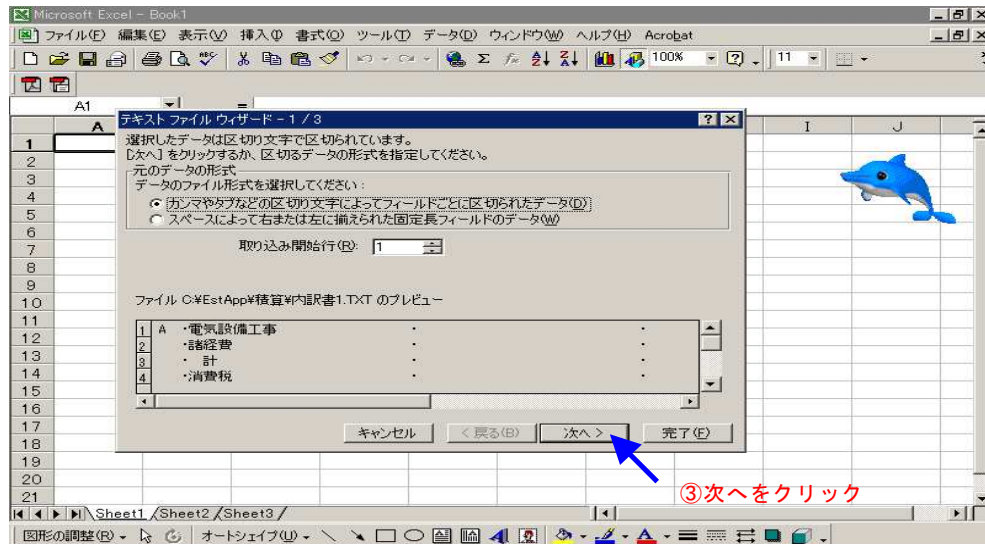
内訳書テキストファイル出力ダイアログが表示される

現在編集集中のファイル名が拡張子を.txtに変えて表示される

次に表計算ソフトを立ち上げます



このような画面が表示されるので



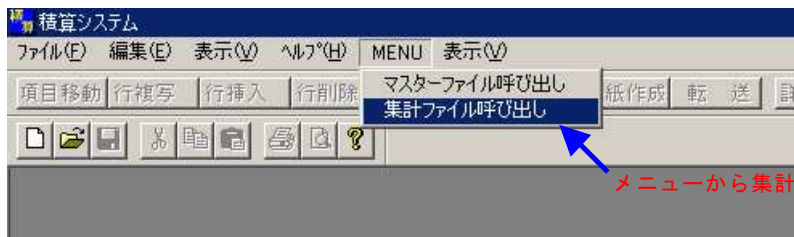
表計算画面に表示

A	B	C	D	E	F	G	H
1	A	電気設備工事	1	式	665000	665000	
2		諸経費	1	式	45000	45000	
3		計				71000	
4		消費税	1	式		35500	
5		総計				745500	
6	A	電気設備工事					
7	1	電灯設備工事	1	式	625000	625000	
8	2	電話用配管設備工事	1	式	40000	40000	
9		合計				665000	
10	1	電灯設備工事					
11		合成樹脂可とう電線管 PF(22)インペイ	13	m	84	1092	備考
12		合成樹脂可とう電線管 PF(16)インペイ	66	m	61	4026	
13		合成樹脂電線管付属5ビニル管		1式		1167	
14		アウトレットボックス 102X44 C付		10ヶ	136	1360	
15		電線(PF管路) IV 2.0 x2	1150	m	28	32200	
16		埋込スイッチ 大角型 1P15Ax4 新金P		ヶ	766		
17		分電盤 露出型 銅板製扉付	1	面	125000	125000	見積書による
18		雑材消耗品		1式		5145	
19		小計				169990	
20		労務費	26.15	人	17400	455010	
21		小計				625000	

セルで区切られたデータが表示されますので他社の表計算で作成した内訳書にも貼付けすることができます。同様の手順で代価（単価）表も読み込むことができます。

第9章 作成した内訳書から集計表を作成

9-1、集計画面に読み込み



集計画面が表示されるので



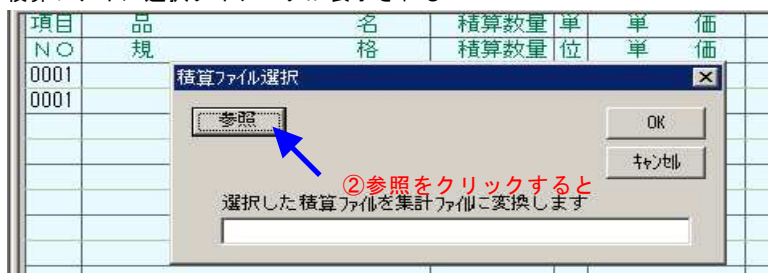
ここに内訳書の材料、付属品
雑材消耗品、労務費等を分類
毎に集計して表示します。

ファイルから

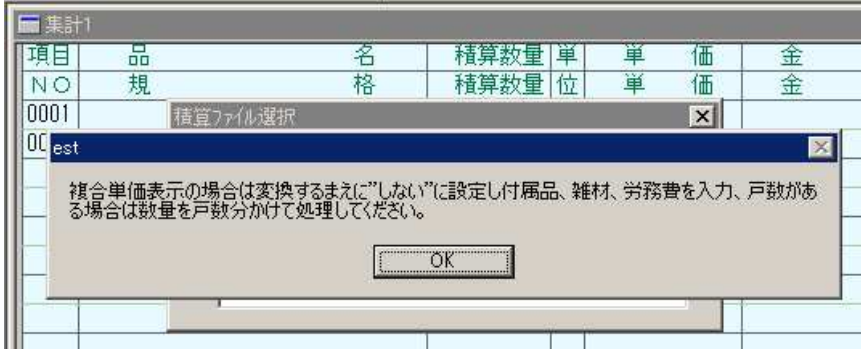


①積算ファイルを変換を選択してクリックすると

積算ファイル選択ダイアログが表示される



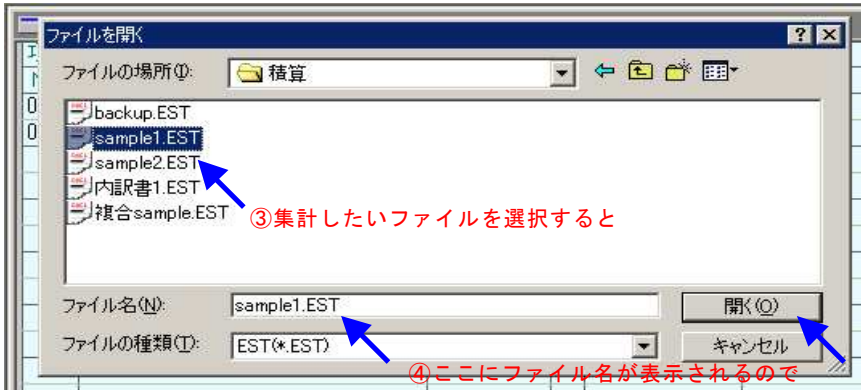
複合表示確認ダイアログが表示されるので



※重要事項

ここで注意しなくてはならない事は複合単価モードで作成された内訳書の場合、付属品、雑材消耗品、労務費電工、普通作業員等が表示されていないので必ず労務費を計上して積算モードに切り替えて付属品、労務費等を表示出来るようにしてから内訳ファイルを変換しなくてはなりません。また、マンション等のように内訳書で1戸分の内訳を作成して表紙で5戸分を計上した場合等は内訳書の数量を5倍した内訳書に変更（表紙は5戸を1式に変更）しなくてはなりません。いずれにしても内訳書の合計金額と集計の合計金額と合っているかは担当者の責任で確認する必要があります。

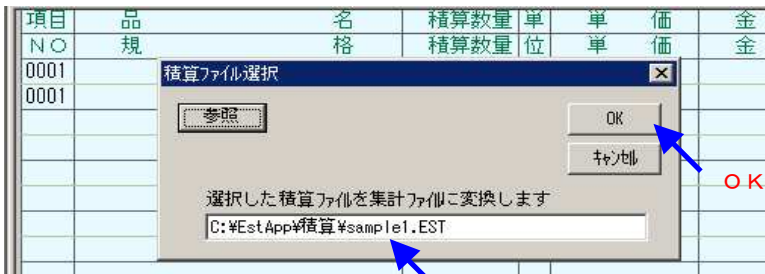
ファイルを開くダイアログが表示される



③集計したいファイルを選択すると

④ここにファイル名が表示されるので

⑤開くか③でダブルクリックすると



OKをクリックすると

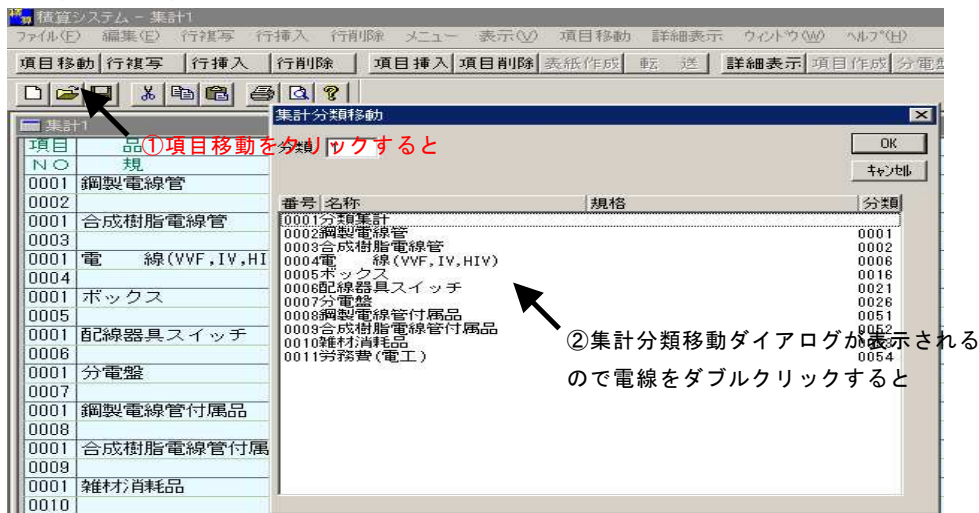
⑥ここに表示されるので

分類集計された材料が表示された

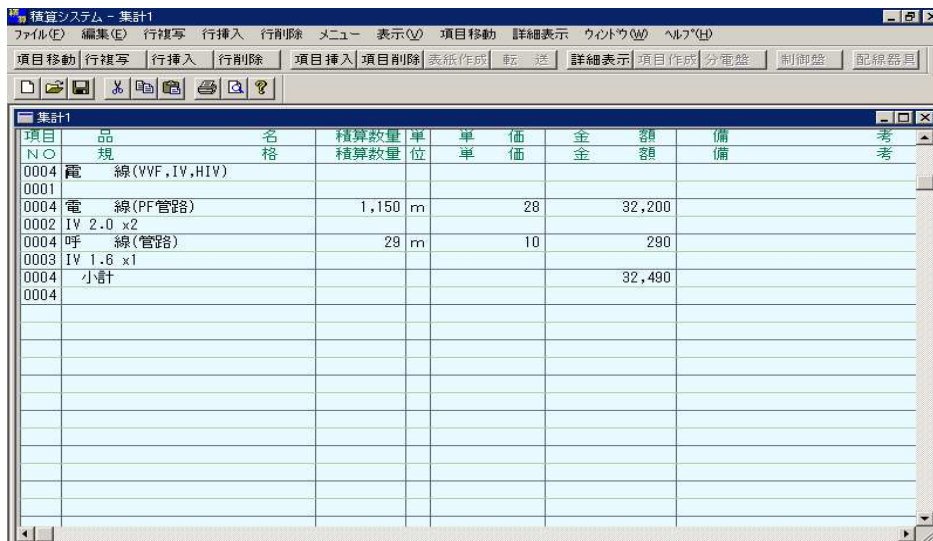
項目NO	品名	積算数量	単価	金額	備考
0001	鋼製電線管	1	2,240	2,240	
0002		1			
0001	合成樹脂電線管	1	5,118	5,118	
0003		1			
0001	電線(VVF,IV,HIV)	1	32,490	32,490	
0004		1			
0001	ボックス	1	2,040	2,040	
0005		1			
0001	配線器具スイッチ	1			
0006		1			
0001	分電盤	1	125,000	125,000	
0007		1			
0001	鋼製電線管付属品	1	1,000	1,000	
0008		1			
0001	合成樹脂電線管付属品	1	1,167	1,167	
0009		1			
0001	雑材消耗品	1	5,367	5,367	
0010		1			
0001	労務費(電工)	1	547,578	547,578	
0011		1			
0001	計	1		722,000	

項目1は分類集計が表示されます。各分類の詳細は項目2以降から表示されます。

各分類の詳細を表示



項目 4 が表示された



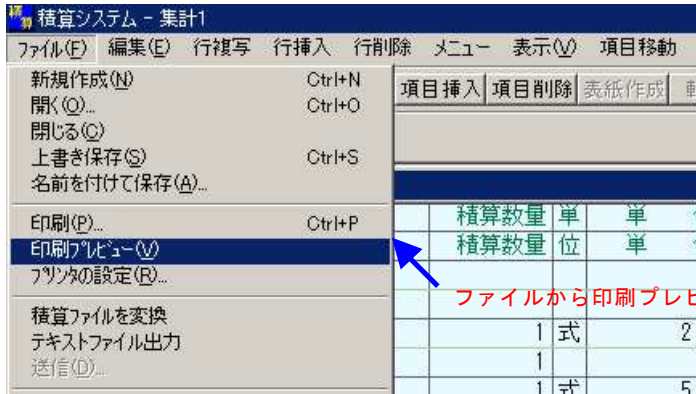
選択した項目 4 の電線の集計が表示されています。

同様に項目 1 1 を表示



労務費が集計されて表示されています

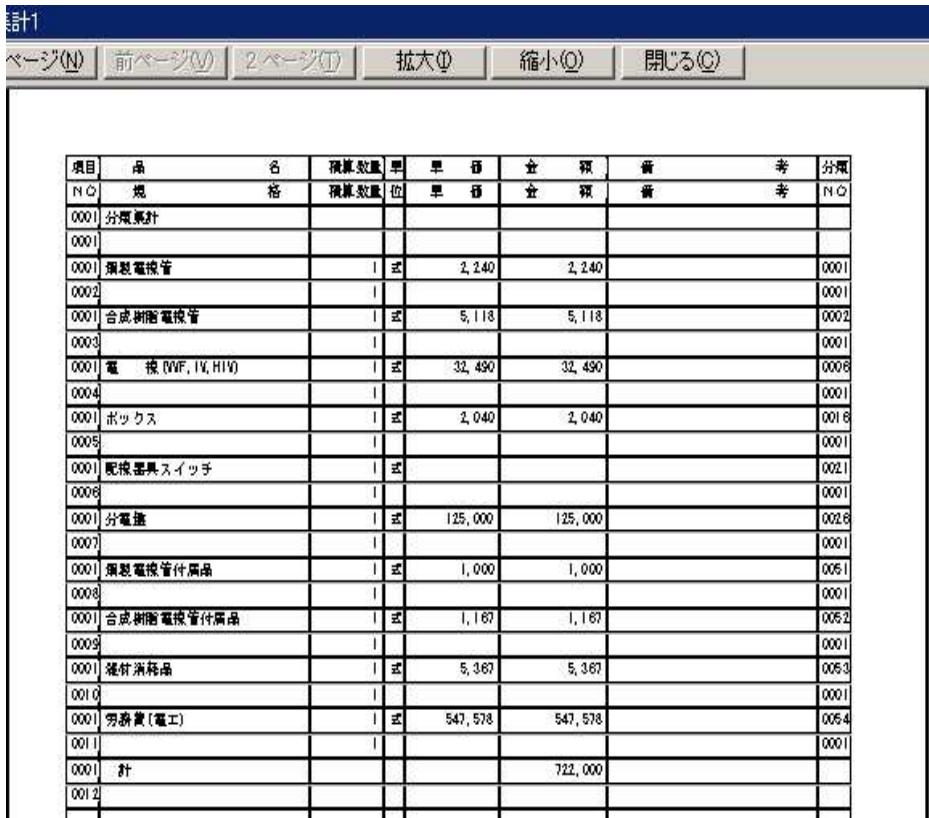
9-2、集計表を印刷



用紙はプリンタの設定でA4縦置きに設定してください。

①ファイルから印刷プレビューを選択します

集計表の印刷画面が表示された



9-3、集計表をテキストファイル出力



①ファイルからテキストファイル出力を選択すると

集計表テキストファイル出力ダイアログが表示される



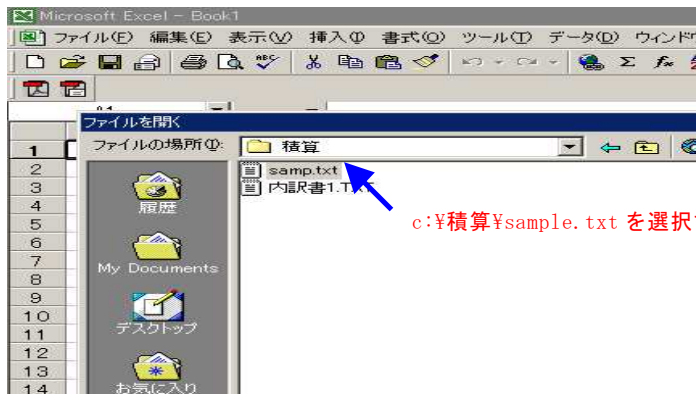
②ここに出力したいファイル名を入力

ファイル名はフルパスで入力して拡張子をtxtとしてください。

例ドライブCの積算ホルダーにsampleという名前で保存するときは

c:\積算¥sample.txt と入力します。

表計算ソフトを立ち上げて



c:\積算¥sample.txt を選択すると

ファイルの種類をテキストファイルに変えて

セル毎に集計表が読み込まれた

	A	B	C	D	E
1		分類集計			
2	1	鋼製電線管		2240	
3	2	合成樹脂電線管		5118	
4	6	電線(VVF,IV,HIV)		32490	
5	16	ボックス		2040	
6	21	配線器具スイッチ			
7	26	分電盤		125000	
8	51	鋼製電線管付属品		1000	
9	52	合成樹脂電線管付属品		1167	
10	53	雑材消耗品		5367	
11	54	労務費(電工)		547578	
12		計		722000	

このデータは工事実績表等に貼り付けて毎月の出来高実績を集計して原価管理に役立つものと思います。

第10章 使用上の注意とトラブル対処法

10-1、マスターファイルの単価について

マスターファイルの単価は参考単価を掲載してありますのでご使用者が自社で積算に採用している単価を入力して原価計算等に反映させるための適正な価格を設定し直す必要があります。

単価入力の委託については別途費用にて申し受けます。

本ソフトウェアの単価変換、単価コピー機能を使用すれば効率よく入力できます。

歩掛等については国土交通省建築工事積算基準に準拠しています。

(建設物価調査会の建設単価データベース利用には現在では対応しておりません)

10-2、内訳書作成に関する注意事項（かならずお読みください）

本ソフトでは数量を入力すれば、金額を表示、経費を入力すれば経費の金額が合計を入力すれば各項目毎の合計、全体の合計が自動で計算されますので作業時間が短縮でき、経費削減につながります。しかしながら、本ソフトウェアは積算業務を支援するためのものであり出来上がった見積書の正当性については補償するものではありませんのでご使用者において提出前に単価、金額、経費、合計金額、及び表紙金額については検算等チェックを行ったうえで今までの積算実績に照らし合わせて妥当かどうか判断した上で提出する必要があります。

また本ソフトウェアは演算分類を設定したファイルを読み込む事によって分類に演算機能をもたせておりますが、使用者の操作、予期せぬトラブルで一部分が削除、または書き換わった場合、表計算ソフトウェアの計算式が消えた時と同じように計算に不具合が生じます。

また大項目、中項目を使った複雑な計算をした時など予想外の金額が出る場合（通常はありませんが）もありえるかも知れませんのでいずれにしても前後関連等（各項目の金額と項目集計の金額等が合っているか）に注意してかならず見直す事が肝心です。

10-3、漢字変換モードで数量、単価等の数値入力できない場合

漢字変換モードでも数字を入力してEnterキーで数字（半角）で表示出来ませんがEnterキーで消える場合はキーボードの左上の半角/全角キーを押して半角数字入力モードで入力してください。

10-4、漢字変換モードで先に変換した文字が次に変換確定した文字の次に表示される場合

これはWindowsのバージョンと日本語変換機能の組み合わせでこのような症状が出る時があります。その場合はF-8キーを押すか、詳細をクリックするか、編集行をダブルクリックして詳細ダイアログを表示してそこで編集してください。（現在対応を検討中）

10-5、材料集計で分類集計に材料分類が表示されない場合

これはマスターファイルを他のマスターに設定した場合、分類名の書き込まれていない分類については何も表示されませんので内訳作成ウィンドでマスターファイルをMaster.Mstに変更してください。

10-6、エラー表示がでてソフトウェアが立ち上がらない場合（XPまで）

なんらかの原因でウィンドウズシステムホルダー内のEst. INIファイルが書き換わっています。エクスプローラを立ち上げてツール->フォルダオプション->表示をクリックし全てのファイルを表示するにチェックを入れて、登録されている拡張子は表示しないのチェックをはずしてEst. INIを探して削除します。

その後ソフトウェアを立ち上げると、初期状態になっていますので、設定をクリックして再設定するか、ソフトウェアをアンインストールして再インストールし直す必要があります。

Vista,7以降はレジストリに書き込んでいますのでレジストリエディタでEstを削除する必要があります。

10-7、本ソフトウェアの仕様について

仕様については予告なしに変更する事があります。その場合マニュアルの説明とは、食い違いがある部分が発生する事があります。

第 1 1 章 許諾契約書と免責事項

1 1 - 1、ソフトウェア使用許諾契約書 ご使用前に必ずお読みください。

この契約は、お客様（個人/法人を問いません）とプレックソフト（以下、甲と表示）とお客様（以下、乙と表示）の間の契約であり、お客様が本契約書内容に同意いただいた場合のみ本ソフトウェアをご使用いただけます。

ライセンスはこれを購入されたお客様が本ソフトウェアを同時に 1 台の P C でのみ使用する権利です。本ソフトウェアを同時に複数の P C 上で使用する場合には、同時使用する数のライセンスが必要となります。

本ソフトウェアをご使用になる前に下記事項をお読み下さい。本ソフトウェアをご使用になりますと、お客様は下記事項に同意されたものとみなされます。もし、ご同意いただけない場合には、ご使用にならないようお願いいたします。

1. 使用权の許諾

甲は乙に対し、本ソフトウェア使用許諾契約書に基づき、入手されたソフトウェア（本ソフトウェア）について以下の権利を許諾いたします。

2. 著作権等

本ソフトウェアは甲が著作権ならびにその他の権利を有するソフトウェアです。

3. その他条件

乙は、本ソフトウェアをリバースエンジニア、逆コンパイル、逆アセンブルしてはなりません。乙は、本ソフトウェアを第三者にレンタル、リースまたは譲渡することはできません。また、第三者に対し、再使用許諾することもできません。

4. 保証

甲は、本ソフトウェアに関して、その商品性及び特定の目的に対する適合性を含むその他の保証を一切いたしません。

5. 免責事項

甲は本ソフトウェアの使用に関して直接または間接的に生じる一切の損害についても責任を負いません。

この使用許諾契約は、日本国法に準拠するものといたします。

1 1 - 2、ご使用者の名前（社名）を表示

本ソフトウェアには乙の名前（社名を内訳作成ウィンドのステータスバーに表示して登録ナンバーに代えさせていただきます。

1 1 - 3、サポート情報

弊社への連絡は、緊急時以外は電子メール（precsss@ybb.co.jp）でお願いします。

TEL 088-832-6965

FAX 088-832-6988

製作、著作 プレックソフト (P r e c S o f t)
M a s a z u m i K a w a s h i m a